

官報

號外

明治二十九年三月十四日

土曜日 内閣官報局

○第九回衆議院議事速記録第二十七號

明治二十九年三月十三日(金曜日)午後一時二十五分開議

議事日程 第二十七號 明治二十九年三月十三日

午後一時開議

第一裁判所ノ設立及位置並管轄區域ノ變更二關

前會ノ續

第一スル法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(特別委員)

第二大阪府下郡廢置法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(長報告)

第三兵庫縣下郡廢置及郡界變更法律案

第一讀會ノ續(特別委員)

第四(政府提出)埼玉縣下國界變更及郡廢置法律案

第一讀會ノ續(特別委員)

第五(政府提出)群馬縣下郡廢置及郡界變更法律案

第一讀會ノ續(特別委員)

第六千葉縣下郡廢置法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(特別委員)

第七茨城縣下郡廢置及郡界變更法律案

第一讀會ノ續(特別委員)

第八栃木縣下郡廢置法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(特別委員)

第九福島縣下郡廢置法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(特別委員)

第十巖手縣下郡廢置及郡界變更法律案

第一讀會ノ續(特別委員)

第十一(政府提出)富山縣下郡分離及廢置法律案

第一讀會ノ續(特別委員)

第十二(政府提出)鳥取縣下郡廢置法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(特別委員)

第十三島根縣下郡廢置法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(特別委員)

第十四熊本縣下郡廢置法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(特別委員)

第十五鹿兒島縣下國界並郡界變更及郡廢置法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(特別委員)

第十六大分縣境界變更法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(特別委員)

第十七奈良縣下郡廢置法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(特別委員)

第十八三重縣下郡廢置法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(特別委員)

第十九滋賀縣下郡界變更及郡廢置法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(特別委員)

第二十日本勸業銀行法案(政府提出)

第一讀會

第二十一農工銀行法案(政府提出)

第二讀會

第二十二獸疫豫防法案(政府提出貴族院送付)

第二讀會

第二十三獸疫豫防法案(政府提出貴族院送付)

第二讀會

第二十四移民保護法案(政府提出)

第二讀會

第二十五北海道鐵道敷設法案(貴族院提出)

第二讀會

第二十六右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第二讀會

第二十七酒精營業稅法中改正法律案

第二讀會

第二十八山形縣下郡分合法案(重野謙次郎君外二名提出)

第二讀會

第二十九郡制改正法律案

第一讀會ノ續(特別委員)

○議長(楠本正隆君) 諸君、是ヨリ諸般ノ報告ヲ爲シマスル

(佐脇書記官朗讀)

臣ヨリ答辯アリ

衆議院議員金尾稜嚴君提出ニ係ル軍艦千島號訴訟事件ニ關スル質問ニ對シ西郷海軍大

臣ヨリ答辯アリ

衆議院議員金尾稜嚴君提出ニ付及御回付候也

シ海軍大臣ヨリ答辯書提出ニ付及御回付候也

明治二十九年三月十二日

内閣總理大臣侯爵伊藤博文

衆議院議長楠本正隆殿

衆議院議員金尾稜嚴君提出軍艦千島號損害要償ノ訴訟ニ關スル質問ニ對

シ別紙答辯書差進候也

明治二十九年三月七日

海軍大臣侯爵西郷從道

衆議院議長楠本正隆殿

(別紙)

衆議院議員金尾稜嚴君ヨリ提出ノ軍艦千島損害要償ノ訴訟ニ關スル

質問書ニ對スル答辯書

質問提出者カ述フルカ如ク現行條約ニ於テ我原告タル時ハ彼ノ裁判ヲ仰キ彼原告タル時ハ我ノ裁判ヲ仰クハ論ヲ待タサレハ則チ政府ハ此理由ヲ以テ反訴拒絶ノ抗辯ヲ爲シ遂ニ我レノ勝訴ニ歸シタルモノニシテ反訴其モノニ對シテ答辯ヲ爲シタルニアラサルナリ

若シ英國枢密院ニ於テ千島艦沈没ノ場所ハ日本ノ領海ニ非スト判決シタルトキハ政府ハ其判決ニ服從セントスル決心ヲ有シタリシヤトノ點ニ至テハ當時未定ノ問題ニ係リ今之カ答辯ヲ爲スヲ要セスト雖モ嘗テ在上海

英國高等裁判所ニ於テ爲セル領海ニ係ル判決ニ關シテハ政府ハ他日ノ誤

解ヲ避ル爲メ直チニ英國政府ニ向テ該内海ハ全ク帝國領海ニシテ事實上ニ於テモ權利上ニ於テモ各國公共ノ航路又ハ公海ト見做スヘキモノニ非サル旨ヲ宣言シ置キタリ

右及答辯候也

明治二十九年三月七日

海軍大臣侯爵西郷從道

京都府下郡廢置法律案

東京府下郡廢置法律案

貴族院ニ於テ兩院協議會ノ成案ニ係ル鐵道敷設法中改正法律案ヲ否決シタ

ル旨同院ヨリ通牒アリ

漆間民夫君ヨリ臺灣島ニ於ケル外人土地所有權ニ關スル件ニ付、沼田宇源

太君、鳩山和夫君ヨリ朝鮮事變處分ニ關スル件ニ付政府へ質問書ヲ提出セラレタリ

議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

明治二十三年法律第百五號中改正法律案

提出者

保安條例廢止法律案

提出者

西村眞太郎君

別格官幣社ヲ臺灣ニ建設スルノ建議案

提出者

北原信綱君

特別委員長及理事左ノ通り當選セラレタリ

馬四ノ調査及検査ニ關スル法律案審查特別委員長谷河尚忠君

同理事

深山聳岐君

（左ノ質問書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス）

臺灣島ニ於ケル外人土地所有權ニ關スル質問書

一帝國ノ新領土タル臺灣島ニ於テ讓受前既ニ外人ノ土地ヲ所有シテ居タル者尠カラストノ說アリ果シテ然ル乎然ラハ帝國政府ハ清國政府ヨリ引渡ノ當時其土地ノ種類所在、面積及該外人ノ國籍、住所、姓名等ヲ明確ニ知悉セルナルヘシ其詳細如何

一我國駐劄獨逸公使ヨリ帝國政府ニ向ヒ清國政府カ臺灣島割讓前同島居留獨逸人ニ對シ炭坑區及ヒ樟腦區ノ所有權ヲ附與シアリタリトテ之ニ關シ同一ノ權利ヲ與ヘラレタシトノ旨ヲ照會シ來リタリト聞ク果シテ然ラハ政府ハ之ニ對シテ如何ナル答辯ヲ與ヘタルヤ未タ與ヘストセハ如何ナル答辯ヲ與フル乎

一右等ノ如ク清國カ認メ居リタル同島ニ於ケル外人ノ土地所有權ニ對シテ

帝國政府ハ現ニ如何ニ處分セル乎又今後如何ナル處分ヲ施サントスル乎

右成規ニ據リ提出候也

明治二十九年三月十二日

提出者 漆間民夫

贊成者 外十三名

右質問ニ及ヒ候間速ニ明了ノ答辯アランコトヲ望ム
明治二十九年三月十一日

提出者 沼田宇源太
賛成者 坂本理一郎

鳩山和夫

外二十九名

○議長（楠本正隆君）會議ヲ開キマス、本日モ民法修正案委員會ヲ開キマスルニ依クテ、該委員長ヨリ退席ノ請求ガゴザイマス、承認ヲ請ヒ置キマス

（「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（楠本正隆君）次ハ質問ノ辯明ヲ——漆間民夫君

（漆間民夫君演壇ニ登ル）

○漆間民夫君（二百十七番）諸君、私ハ政府ニ向クテ質問ヲ致シマシタニ

依クテ、聊カ趣意ヲ辯ジマスルガ、元來政府ノ外政上失策ニ就イテハ、是マデ

諸君ヨリシテ種々ナル質問ヲ提出致サレマシタケレドモ、尙私ハ幾多ノ質問ヲ致シタキ事ガアリマスルガ、併シ外政上ノ政府ノ失策ニ就イテ質問致シマ

スルモ、詰リ駄目ナリト思フ、何トナレバ政府ハ多々益々窮迫スルノミズ、

恐ラクハ一々其答辯が出來ナイデアラウト思ヒマス、ソレ故ソレ等種々ノ質問

ヲ致シタキ事ガアリマスルガ、併シ外政上ノ政府ノ失策ニ就イテ質問致シマ

シテモコニニ聞イテ置カナケレバナラヌコトガゴザイマス、ソレハ我帝國ノ

權利、最モ至重ナル權利ニ關スルノ問題デゴザイマス、即チ戰爭ノ結果トシテ、我版圖ニ歸シタ所ノ臺灣ニ於ケル外國人ノ土地所有權ニ關スル問題デゴ

ザイマス、聞ク所ニ據レバ、清國政府ハ臺灣割讓前ニ於テ、獨逸人ニ對シテ

樟腦ノ採取、又ハ炭礦事業ニ就イテ一種ノ特權ヲ與ヘテ居ツタト云フコトデ

アル、ソレニ就イテ我國駐紮ノ獨逸公使ヨリ政府ニ向クテ、其炭礦區、並ニ

樟腦區所有權ヲバ、嘗テ清國政府ヨリ與ヘテ居ツタ所ノ特權ト同様ニ與ヘテ

吳レヨト云フ旨ヲ照會シ來タト云フコトデゴザイマス、其他臺灣ノ清國政府

ノ統治權ノ下ニ在ツタ時カラシテ、土地ヲ所有シテ居ツタト云フコトヲ主張

スル外人ガアルト云フコトデゴザイマスルガ、此事若シ真箇ニ有リトシタナ

ラバ、政府ハ清國政府ヨリ臺灣引渡ノ當時ニ於テ、外國人ノ持ツテ居ツタ所

ノ土地ノ種類所在、面積、及其外人ノ國籍、住所、姓名等ノコトモ清國ヨリ受繼イダモノト思フ、サレバ政府ハ之ヲ知ラナイ道理ハナイト考ヘマス、

果シテ知ツテ居ルナレバ、總理大臣カ、若クハ外務大臣ハ議場ニ出テ、詳細ニ其報告ヲ爲シ、兼テ此事ハ如何ニ處分スルゾ等ノ意見ヲ發表セネバナラズ

ト思ヒマス、顧フニ外國ニ於テ、外人ノ土地所有權ヲ許シテ居ルカラシテ、

媾和ノ後雙方ノ人民ノ土地ニ關シテ、問題ガ起リマシタケレドモ、第二國ノ

人民ガ割譲地ノ上ニ持ツテ居ル土地ニ就イテハ、更ニ問題ガ起ツタ例シガナ

イノデアル、然ルニ我日本帝國內ニ於テ外國人ヲシテ土地ヲ所有セシムルコトハ、現行條約ノ許サナイ所デアル、又或國トハ既ニ成リ、或國トハ將ニ成ラントスル所ノ改正條約モ、亦同ジク許サニル所デゴザイマス、是ハ既ニ諸君モ御承知ノコト、思ヒマス、獨リ條約ノ許サニルノミナラズ、我國法トシテモ亦同ジク許サナイ所ノモノデアルノデアル、今御参考ノタメニ申シマスト云フト、明治五年四月十四日ノ達ニ左ノ如クアルノデアル「皇國內一般地所ノ各銘々所持ノ分タリトモ外國人ニ對シ賣渡シ候儀ハ勿論金銀取引ノタメ地所又ハ地券等書入致シ候儀ハ決シテ相成ラス候條末々ノ者ニ至ルマテ心得無之様云々」斯様ニナツテ居ルノデゴザイマス、ワレ故ニ外國人ヲシテ土地ヲ所有セシムルコトハ國法ノ上カラ見テモ、又條約ノ上カラ見テモ、決シテ許スコトノ出來ナイノデゴザイマス、既ニ今日外人ニ土地所有權ヲ有セシムルコトノ出來ナイノハ右ニ申ス如クデゴザイマスル、ソレデアレバ臺灣ニ於テ、勿論從來ノ我國ノ法律ノ及ブモノデアルト云フコトハ、私ハ堅ク信じテ疑ハヌノデゴザイマス、誠ニ帝國ニ於テ外人ニ土地所有權ヲ許サナイノハ、國ノ利益ヲ圖リ、國ノ秩序ヲ保ツノ上ニ於テハ已ムヲ得ザルコト、思フ、サレバコソ、此反對ニ外人ニ土地所有權ヲ許スト云フコトニナルト云フト、國ノ利益ヲ失シ、國ノ秩序ニ害アルト云フコトニナルノデアル、既ニ帝國ニ、舊土ニ於テ利益ト秩序トニ損害アリト見テ土地所有權ヲ許サナイモノトシタナラバ、新領地ニ於テモ同様ナリト考ヘルノデゴザイマス、殊ニ知ラズ昨二十八年四月二十日ニ公布セラレタル所ノ彼ノ馬關條約中ニ、我領土ニ歸シタル所ノ住民ノ分限及所有權ニ關スル款項ヲ設ケテ協議決定シテ居ルノデアル、其第五條ニ曰ク「日本國へ割セラレタル地方ノ住民ニシテ右割與セラレタル地方ノ外ニ住居セント欲スル者ハ自由ニ其所有地不動產ヲ賣却シテ退去スルコトヲ得ヘシ其タメ本約批准交換ノ日ヨリ二年間ヲ猶豫スヘシ但右年限ノ滿チタルトキハ未タ該地方ヲ去ラサル住民ヲ日本國ノ都合ニ因リ日本國臣民ト視爲スコトアルヘシ」ト斯様ニ書イテアルノデゴザイマス、即チ我國ハ前主權者ヨリ此約款ヲ以テ澎湖島、臺灣全島及奉天半島ト云フモノヲ得タノデゴザリマス、而シテ茲ニ所謂割與セラレタル住民ト云フ者ハ、必シモ支那人種ヲ意味シタモノデナイト思フ、前主權者統治ノ下ニ於テ同島ニ棲息シテ居ル住民ナラバ、其種屬ノ西洋人タルト南洋人タルト、將タ何レノ人種タルト問ハズ、此住民ト云フ中ニ包含シテ居ルモノト思フ、然ラバ我ハ之ニ依ツテ右等ノ如キ住民ノ處分ヲ施シテ差支ナキコト、思ヒマスルガ、併シ或ハ伊藤サンガ言ハシ、住民トハ即チねち一ぶヲ言ツタモノデ、此條款ヲ協議決定セル際ニ、唯支那人ノ土地所有者ノ處分方法トシテ規定シタルモノニ過ギナイト、斯様ニ申スカモ知レナイガ、果シテ住民ト云フ解釋ヲ左様ニ致サレタナラバ、ソレハ既ニ住民ト云フコトニ就イテ質問致サナケレバナラヌガ、假ニ右ノ如キ解釋ニ致シマシタ所デ、先ニ申シマシタ通ニ、既ニ國法ト條約ノ存スル以上ハ、獨リ臺灣ニノミ土地ノ所有權ヲ許スコトノ出來ナイト云フコトハ、分リ切ツタコトデアル、併ナガラ今ノ伊藤内閣ハ内ニ對シテハ頗ル强硬主義ヲ取リ、立憲政體トシテハ殆ド忍ビ得ベカラザル程ノ抑壓主義ヲ取ル内閣デゴザリマスルガ、併ナガラ免角外國ノ事トシ言ツタナラバ當ニ怖氣ヲ持ツタル人々、腰弱ナル先生達ナルガ故ニ、前ニ述ベタルガ

如キ或ル國ヨリシテ土地所有權要求ト云フ話ガアツテ、假リニモソレニ應ジタナラバ如何デゴザイマスルカ、實ニ是ヨリシテ外權内侵ト云フ端ヲ開クコトニ爲ルノデアル、諸君ハ往年彼ノ外人ノ神戸或ハ輕井澤ト云フガ如キ處ニ日本ノ名義ヲ以テ土地ヲ所有シタルノミナラズ、ワレニ家屋ヲ建築シ、甚シ侵ノ憂ガアルノデアル、實ニ之ヲ恐レズシテ而シテ之ヲ恐レザルヲ得ヌコトニアラウト思ヒマス、ソレ故ニ此事ニ關シテハ飽クマデ政府ノ意志ヲ確メテ置カネバナラヌコト、思フテ、私ガ此質問ヲ提出致シタ次第デゴザリマス、終ニ臨シテ一言致シマスガ、會期漸ク迫ルノ折柄、胸襟ヲ披イテ國家ノ前途ヲ談ズルニ、伊藤侯本員ノ質問ハ内閣ノ失政上ニ對シテ、批難的ノ質問、攻撃的ノ質問ト同一視シテカラニ、答辯ヲ怠ルガ如キコトナカラシコトヲ私ガ切ニ望ムノデゴザリマスル

○議長(楠本正隆君) 沼田宇源太君

(沼田宇源太君演壇ニ登ル)

○沼田宇源太君(一番) 諸君、本員等ハ昨年十月八日ノ朝鮮事變處分ニ關スル質問ヲ今日政府ニ提出致シタノデゴザイマス、一應朗讀致シマセウ、即チ斯様ノ質問デゴザイマス

政府ハ三浦公使以下ノ處分ニ關シ司法權ニ干渉シタルコトナキヤ又横濱地方裁判所檢事正安藤謙介ヲ朝鮮ニ派遣シ及ヒ三浦公使以下ヲ廣島ニ於テ逮捕セシハ何ノ法律ニ據リタルヤ同連累者中ノ官吏ハ多ク復職シテ再ヒ朝鮮ニ拘ラス官吏ニアラルモノハ一年以上ノ退韓ヲ命セラル、ハ不公平ノ處置ニアラスヤ是等ノ者ニ對シテハ政府ハ退韓處分ヲ取消スノ方針ナルヤ

斯様ノ質問デゴザイマス、此第二ノ質問ニ於キマシテハ既ニ文章ニ明ナルコトデゴザリマスカラ、別段申上ゲル必要モゴザイマセヌガ、第一ノ質問ニ對シテハ聊カ口頭ヲ以テ補ツテ置カウト思ヒマス、抑、司法權獨立即チ行政權ヲ以テ司法權ニ干渉スルコトガ出來ナイト云フコトハ、今日ニ及ビマシテ私共ノ喋々ヲ挨ツコトハゴザイマセヌ、固ヨリ極リ切ツタ事デアル、立憲政治理ノ基礎トシテ司法權ノ獨立ト云フコト程大切ナモノハナイ、然ルニ昨年十月八日ノ朝鮮事變ニ就キマシテハ、三浦公使以下ノ獄獄一件ニ關シマシテハ、政府ノ處置ニ於テ疑フベキ點ガ澤山アル、先ツ其中ノ一二ヲ拾フテ申上ゲマスルト、此變報ノ達スルト同時ニ、横濱地方裁判所ノ檢事正安藤謙介ナル者ヲ朝鮮ニ派遣シテ何事カノ取調ヲ爲サシメ、或ハ司法省ノ官吏ヲ廣島ニ判事タル人マテ其當時定マタ位ノコトヲ爲サシメ、或ハ司法省ノ官吏ヲ廣島ニ出張セシメテ何事カノ打合ヲ爲サシメ、或ハ此變報ノアルト同時ニ、即チ三浦公使等ガマダ朝鮮カラ出發モセヌ中ニ、此管轄裁判所ヲ廣島ト定メ、其係判事タル人マテ其當時定マタ位ノコトヲ爲サシメ、或ハ司法省ノ官吏ヲ廣島ニ時既ニ十分御承知ノ事柄デゴザイマセウ、デ、此事ニ就キマシテハ本員等ノ確ナル所ニヨリ聞込ンダ事ガアル、又聞込ンダ事ガアルト云フテ申上ゲマシタナラバ、或ル一派ノ人ニハ御前ガ新聞ヤ風説ヲ持ツテ來テ、此堂々タル帝國議會ニ於テ質問ノ材料ニスルノデアルカト言ハレルカモ知レマセヌガ、私

ハ決シテ一片ノ風説若クハ新聞等ヲ以テ質問ノ材料トスルノデハゴザイマセヌ、是ハ成ル程書面ニ書イテアルコトデモナシ、十分確ナル所ヨリ聞込ンダル所ノ事柄デアル、是ハ初メ日本政府ハ此事變ノ報知ノ、或米國人デ朝鮮ニ居クタ者カラ米國公使館ニ到達シタル所ノ電報ニ依テ此事變ヲ聞イテ、政府ハ非常ニ狼狽ヲセラレテ、今ニモ露西亞カラ兵隊デモ向ケテ來ラレハセヌカト云フ恐怖心ヲ起シ、非常ナル周章狼狽ヲ以テ、未ダ我公使館カラハ詳ナル報知モ來ラズ、又守備隊ヨリノ報告モ政府ハ信用セヌデ、唯外國人カラ來タ所ノ一片ノ電報ニ依テ、直グニ露西亞ニ駐在ヲシテ居ル西公使ノ處ニ電報ヲ掛ケラレタト云フコトデアル、其電報ハ如何ナル電報デアルカト申シマスルト、即チ西公使ヲシテ露西亞ノ政府ニ申込マシメタノデアル、ソレハ三浦公使ナルモノハ我日本政府ノ命令ニ背キタル大罪人デアル、ソレ故ニ之ヲ嚴罰ニ處スルコトデアルカラ、ドウゾ此局ハ平穏ニ結シテ貴ヒタイト云フコトノ趣意ヲ、西公使ヲシテ露西亞政府ニ申込マシメタト云フコトデアル、所ガ、露西亞政府ニ於キマシテハ、外務大臣ハ西ニ面會ヲ謝絶致シテ、外務次官ヲシテ西ニ面會ヲセシメテ申サレマスルニハ、日本ノ國ガ日本人ノ惡ルイ事ヲシタ者ヲ日本ノ國ノ法律ヲ以テ罰スルト云フコトデアル、折角「オベッカ」ヲ使ヒニ出懸ケタ所ガ、イヤウトモ、無罪ニシャウトモ、ソレハ露西亞政府ノ關係シタ事デハゴザイマセヌ、唯露西亞政府ニ在ツテハ露西亞ノ國是トスル所ヲ斷ジテヒマスルト云フ挨拶ヲシタト云フコトデアル、折角「オベッカ」ヲ使ヒニ出懸ケタ所ガ、イヤミタップリノ挨拶ヲ受ケタモノデアリマスカラ、西ハ更ニ推返シテ、露西亞ノ國是トハ如何ナルモノデゴザイマセウカ、伺ヒタイト申シマシタ所ガ、我邦ノ國是ハ外國人ニ對シ辨明スペキ事デナイト言ツテ列付ケラレタト云フ、此話ノ由ツテ出デタ處ハ十分確ノ處デアル、我政府ハ一方ノ露西亞ニ對シテハ斯様ナ申譯ヲ致シ、又一方ニ於テハ飽クマデ三浦公使以下ヲ嚴刑ニ處シテ此申譯ヲ爲サンントシテ、此趣意ヲ以テ段々取調ヲナサシメタ所ガ、追ト一年以來大島公使以來ノ事柄ノ關係モ現レテ來、又政府ノ往復ノ祕密書類モ色々出テ來ル、之ヲ公判ニ移ス場合ニ爲ルト、此政府ノ近年ノ失策ト云フモノハ、悉ク暴露シナケレバナラヌト云フ所ニ立至ツタモノデアリマスカラ、政府ハ俄ニ方針ヲ變ジテ、是デハ溜ラヌ、是ハ豫審ニ於テ無罪ト云フコトニシテ、突放シテシマフヨリ外ニナイト云フノデ、閣議ガ一變シテ、豫審ハ爲ニ無罪ニ爲シタノデアルト云フコトデアル、是ガタメニ豫審終結書ナルモノヲ見ルニ、一種無類ノ終結書が出來テ居ル、即チ前ニハ有罪ノ事が出テガラ此話ノ由ツテ出デタル處ハ頗ル確ノ事デアリ、萬一斯ノ如キ事ガアツハ是ガタメデアルト云フコトデアル、實ニ怪シカラヌコトデアル、本員等ハ決シテ之ヲ信ジナイ、否、本員等ハ之ヲ信ぜザランツル者デアル、サリナ居ツテ、之ニ附隨シテ無罪ヲ宣言シテ居ル、斯ク前後不揃ノ終結書ノ出タノハ是ガタメデアルト云フコトデアル、是ガタメニ豫審終結書ナルモノヲ見ルニ、一種無類ノ終結書が出來テ居ル、即チ前ニハ有罪ノ事が出テガラ此話ノ由ツテ出デタル處ハ頗ル確ノ事デアリ、萬一斯ノ如キ事ガアツハトシテハ真ニ重大ノ事デアリマスカラ、之ヲ政府ニ質問致シテ、其真否ヲ十分ニ確メテ置カウト思フノデアル、彼ノ露西亞太子ガ——露西亞ノ皇太子ガ日本ニ參ラレマシテ、兇漢ノタメニ暴行ヲ受ケタ場合ニ當リマシテモ、此

司法權ニ干涉シタト云フコトハ色ニアツタノデアル、斯様ナ事ガ前ニモアル所ニ於テモ斯様ナ風説ガ確カナル所ヨリ出デタ以上ハ、左様ナ事ハ萬々ナカラウト云フテ安心シテ居ルコトハ出來ナイノデアル、又彼ノ横濱地方裁判所ノ檢事正安藤謙介ヲシテ朝鮮ニ派遣セシメタト云フコトハ、是ハ何等ノ法律ニ依ツタルモノデアラウカ、本員等ハ更ニ解シ得ザル所アル、成ル程檢事ハ一體ナリト云フテ、檢事ハ司法大臣ノ命令ニ依ツテ指揮ヲ受ケベキ者デハアル、サリナガラ檢事縱令一體ナリトハ雖モ、其職務ト云フモノハ自ラ管轄ノ定ツタルモノデアラウカ、縱令一體ト云フテモ、其管轄ヲ侵スコトハ出來ナイ、況ヤ裁判所構成法以外ニ在ル——我日本國以外ノ外國ノ地ニ在ツテハ、日本ノ檢事ナル者ハ決シテ職務ヲ行フコトノ出來ナイト云フコトハ、固ヨリ當然ノコトデアル、然ラバ日本人ガ朝鮮ニアツテ犯罪ヲナンシタル時ハ、如何ニスペキカト云フテ見マスルト、是ハ朝鮮ノ修交條約ニ於テ極ツテ居ル、其修交條約ノ第十款ニ斯様ニ在ル「日本國人民朝鮮國指定ノ各口ニ在留中若シ罪科ヲ犯シ朝鮮國人民ニ交渉スル事件ハ總テ日本國官員ノ審斷ニ歸スヘシ」斯様ニ修交條約ニハ言フテアル、而シテ日本國官員トハ何ヲ云フカト申シマスルト、朝鮮國ニ派遣シテアル所ノ日本官吏、即チ領事ヲ云フタモノデアル、ソレ故ニ領事裁判規則、即チ是ハ二十一年ノ十月勅令第七十一號ヲ以テ發布ニナツテ居ル領事裁判規則第二條ニ依ツテ見ルト「豫審判事ノ職務ハ領事ヲ行ヒ檢察官ノ職務ハ副領事若クハ領事館書記生之ヲ行フ」ト云フコトニ爲ツテ居ル、即チ檢察官ノ執ルベキ所ノ職務ハ、朝鮮ニ在リマシテハ副領事カ、若クハ警察官、若クハ領事館ノ書記生ガ之ヲ扳ハナケレバナラヌコトニ爲ツテ居ル、日本國ノ檢察官ハ朝鮮ニ往ツテ檢察官ノ職務ヲ行フト云フコトハ何ニモナイ、サウ致シテ見マスルト、如何ナル場合ニ於テモ、此日本國カラ檢察官ガ管轄外ナル、又一步進デ裁判所構成法ノ範圍外ナル朝鮮國ニ派遣スルト云フコトハ決シテアラウ咎ノナイコトデアル、然ルニ此事件ニ就キマシテハ、政府ガ此變報ヲ聞クト同時ニ、此安藤謙介ヲ朝鮮ニ派遣セシメテ、廣島ニ於テ調べシメタト云フノハ、又吾ノノ解レ得ザル事デアル、領事裁判規則ノ第一條ニ依ツテ見マスルト輕罪ニ屬スル裁判權ハ、朝鮮ニ於テ領事裁判所ガ其權限ヲ持ツテ居ル、而シテ重罪ノ裁判權ハドウアルカト云フト、第五條ニ據ツテ重罪ニ係ル公判ハ長崎重罪裁判所ガ管轄ストスウナツテ居ル、今日ニ於テハ重罪裁判所ト云フモノハ特別ニナイカラ、即チ是ハ長崎地方裁判所ガ持ツテ居ル、即チ重罪ニ於キマシテハ、領事館ニ於キマシテ此豫審ヲ爲スペキモノデアルカト云フト、第七條ニ據リマシテ重罪ニ係ル公判ハ長崎重罪裁判所ガ管轄ストスウナツテ居ル、今日ニ於テハ重罪裁判所ト云フモノハ特別ニナイカラ、即チ是ハ長崎地方裁判所ノ管轄ニ屬スベキモノニ爲ツテ居ル、此裁判管轄ノコトハ極テ重ナル事デアル、故ニ領事裁判規則ニ於キマシテモ斯ノ如ク此管轄ハ明ニ定

メテ居ルノデアル、サウ致シテ見マスルト、如何ナル場合ニ於キマシテモ此廣島ノ管轄ニ屬スルト云フコトハナイ、此豫審ノ取調ハ朝鮮ニ於テ領事ガ爲スベキモノデアツタノデアル、勿論刑事訴訟法第二十九條ニハ斯様ノ事ガアル、或ハ是ニ依テ廣島地方裁判所ニ移スコトガ出来ルト云フ人ガアルカモ知ラヌ、刑事訴訟法ノ第二十九條ニ「外國ニ在テ犯シタル罪本邦ノ法律ニ依リ處斷スヘキモノニシテ内地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタルトキハ逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス」斯様ノ規定ガアル、是ニ依ラテ或ハ斯ウ云フカモ知レヌ、此三浦公使以下ハ船ニ乘テ日本國ニ歸ラテ來タノデ、歸ラテ來タカラ是ハ廣島ガ管轄内トシカマヘタノデアル、ソレ故ニ是ハ廣島ノ管轄ニ屬スベキモノデアルト、斯ウ云フカモ知レナイ、サリナガラ此刑事訴訟法ノ第二十九條ナルモノハ、外國ニ於テ或ハ犯罪ノ發見シナカツタ場合、外國ニ於テハ發見シナイデ日本ニ來テ發見シタ場合、若クハ外國ニ於テ罪ヲ犯シテ逃亡シテ日本ニ遁レ歸ラタ場合、斯様ノ場合ヲ申サレタモノニアル、本件ノ如キ犯罪ノ事柄ハ、外國ニ於テ十分ノ取調ヲ爲シ、十分ノ搜査ヲ爲シ、サウシテ此犯罪者ト申サレル所ノ人ニハ、或ハ政府カラシテ歸朝ヲ命ジタリ、或ハ退韓ヲ命ジタリ、朝鮮ニ於テノ處置ハ外見上少モ犯罪人トシテハ取扱ハズ、役人ニハ歸朝ヲ命ジ役人以外ノモノニハ退韓ヲ命シ、サウシテ總テ彼等ヲオビキ出シテ船ノ中ニ連込ンデ、サウシテ豫メ日本ニ於テハ廣島ニ來タナラバ、ソコデトシカマヘテ廣島ノ管轄ニシヤウト云フテ管轄裁判所ヲ極メテ置キ、又判事モ極メテ居ラテ、サウシテ朝鮮ニ居ラタ被告人ト目指サレタモノヲバオビキ出シテ船ニ連込ンデ、サウシテ廣島ニ持シテ來テ、アラ船ヲ著イムト云フ所デトシカマヘテ、其地ガ管轄裁判所デアルト云フノデアル、斯ウ云フコトハ決シテ出來ナイ、左様ノ場合ヲ規定シタ法律デハ萬々ナインデアル、左様致シテ見マスト、此管轄ヲ以テ廣島ニ屬セシメタト云フコトハ、果シテ何等ノ法律ニ依クテ斯ノ如キ處置ニ爲シタモノニアルカ、更ニ分ラヌ事デアル、即チ何レノ點カラ見テモ政府ガ司法權ニ干涉シタリト云フコトハ疑ハザルヲ得ナイ事デアル、或ハ吾々ハ少モ知ラナイ所ノ法律規則デモアルノカモ知ラナイ、是レ則チ本員ガ政府ニ向クテ其答辯ヲ求メル所以デアル、第二ノ質問ニ至リマシテハ是ハ質問書ニ書イテアル通デ、最早辯明ヲ要サムト思ヒマスカラ申述ベマセヌ、唯政府ハ自分自身ガ爲シタ事ニ就イテ、斯様ニシタノハ何ニ依クテシタノデアルカト云フコトヲ速ニ答辯セラレシコトヲ望ムノデアル、凡ソ人ト云フモノハ斯ウ云フコトハ何ニ依クテシタノデアルカト云フト、斯様ミノタメニ斯ウナタノデアルコトヲ望ムノデアル○吉本榮吉君(八十二番) 少シ決議ヲシテ置キタイト思フ事ガアリマス、ソレハ此質問ノ説明デアリマスガ、此質問ノ趣意ヲ述べルコトハ最モ必要デアルト云フコトハ即答ノ出來ル筈デアル、然ルニ政府ハ是マデ質問ニ對シテ免角答辯ヲシナインデアル、ソレデ吾々ハ此事ハ一日モ早ク明瞭ナル答辯アララウガ、質問書ヲ出シタ以上ハ、強チニ説明ヲセズトモ此質問書ダケデ分ラ

ナケレバナラヌ、又分ラヌ質問ヲ出スモノモアリマスマイガ、是カラハ日數モ餘程少ウゴザイマシテ、議スベキ重大ノ問題モ多ウゴザイマスカラ、質問ノ説明ヲセラル、諸君ハ其日ノ日程ノ終ラテカラ後ニ説明ニナルヤウニシタイト思ヒマス(セイマス)「賛成々々」ノ聲起ル議長ノ御勝手テ往カナイ事ナラ、此處デ決議ヲ採ラテ置クコトニシテ貰ヒタメ云フコトデアレバ……

○議長(楠本正隆君) 質問辯明ノタメノ登壇ハ、日程ノ終ラタ後ニシタイト云フ吉本君ノ御説ガアリマスガ、質問ノ辯明ハ會議ノ始ニ於テスルコトガ是マデノ慣例デアリマスカラ、其當時ニ於テ宜シク感ズル所ヲ以テ一時御決議ニナラテ宣イト思ヒマス、サウシナイト後日ニ不便ヲ感ズルヨトガアラウト思ヒマス(セイマス)「セイマス」ト呼フ者アリ)是ハ大事ノコト、思ヒマスソレデ愈々ナラヌト云フコトデアレバ……

○早川龍介君(二百十一番) 今ノ吉本君ノ趣意ハ、會期切迫ノ時デアルカラ賛成デスガ、其邊ハ議長カラ御注意ニナラテ簡単ニスルトカ、場合ヲ見ラルトカ云フコトハ、議長ニ一任シタ方ガ宜カラウト思ヒマス、決議ハ宜クナイト思ヒマス

○議長(楠本正隆君) 免ニ角後日ニ讓リマス——日程ノ第一、裁判所ノ設立及位置並管轄區域ノ變更ニ關スル法律案前會ノ續キ、該案ハ讀會ヲ省略シテ決議ヲ爲スト云フコトニシマス——政府委員清浦奎吾君

前會ノ續

第一 裁判所ノ設立及位置並管轄區域ノ變更ニ關スル法律案(政府提出)

(政府委員司法次官清浦奎吾君演壇ニ登ル)

○政府委員(清浦奎吾君) 本案ニ對シマシテハ、昨日ノ議場ニ就イテ格別ニ御異議モナク、讀會省略杯ト云フ土聲モ響キマス際ニ、高橋小十郎君ヨリノ修正説ガ提出セラレマシテゴザイマス、ソレニ就キマシテ一通り申述べテ置キマス、此高橋小十郎君ノ修正ハ愛知縣ノ八名郡新城區裁判所ノ管轄ニ全部ナラテ居ルモノヲ、其八名郡ノ中ヨリ牛川村、下條村、多米村、三輪村、玉川村、嵩山村此六箇村ヲ引裂イテ、以テ豊橋區裁判所ノ方ニ附ケタイト云フコトデゴザイマス、是ハ斯ウナリマシテモ別ニ差支ヘナイ見込デゴザイマスガ、唯此牛川村外五箇村ノ區裁判ハ豊橋區裁判所ニ屬シ、而シテ牛川村外五箇村ヲ管轄致シマスル所ノ郡役所、警察署、收稅署杯ハ八名郡ノ富岡村ニゴザイマスカラ、其邊ニ關シテ便否如何デアラウカト云フ考ヲ以チマシテ、急速所管廳ノ方ニモ問合セラ致シ、其便否モ篤ト取調ベマシテゴザイマス、高橋君ノ提出案ノ通修正セラレマシテモ、別段不都合モナク、或點ニ就イテハ人民ニ取シテモ便利デアラウト云フコトデゴザイマスカラ、即チ高橋君御提出ノ案ニ對シマシテハ別ニ不同意ヲ唱ヘマセヌデゴザイマス、但シ單獨案トシテ御提出ニ爲リマシタカラ、此文字ノ列ベ方其他ノ點ニ就キマシテ此法案ノ前後ニ照シテ見マスレバ、少シ釣合ノ合ハヌ所ガアラウト思フノデアリマス、村モ全ク高橋君ノ提出ノ通デ宜シウゴザイマスガ、唯法文ノ文字ノ上デ

ゴザイマス、或ハ八名郡ノ南部トカ云フヤウナコトガゴザイマスカラ、或ハ東西杯ト云フヤウナコトニ爲シテ居リマスルカラ、是等ノ事ハ全ク文字上ノ事就イテハ唯今政府委員司法次官清浦君が述ベラレマシタル如ク、東西ト云フヤウナ文字、或ハ南部トカ北部トカ云フヤウナコトハ、唯修正ノ精神ガ分リ易イヤウニト考ヘマシテ、提出案ノ中ニ此文字ヲ加ヘマシタガ、清浦君ノ言ハレマシタ通、ソレハ省イテ然ルベキモノデゴザイマス、就イテハ政府ニ於テモ御同意デアラセラレタ以上ハ、諸君ニ於テモ此際速ニ御賛成ニナフテ、御決シアランコトヲ希望致シマス

ノアゴザイマス

○高橋小十郎君(百七十四番) 本案ノ修正ニ就キマシテハ、昨日修正ノ必要ヲ認メテ一應述べ置キマシタノデ、諸君ニ於テモ既ニ御了承ト推察致シマス、就イテハ唯今政府委員司法次官清浦君が述ベラレマシタル如ク、東西ト云フヤウナ文字、或ハ南部トカ北部トカ云フヤウナコトハ、唯修正ノ精神ガ分リ易イヤウニト考ヘマシテ、提出案ノ中ニ此文字ヲ加ヘマシタガ、清浦君ノ言ハレマシタ通、ソレハ省イテ然ルベキモノデゴザイマス、就イテハ政府ニ於テモ御同意デアラセラレタ以上ハ、諸君ニ於テモ此際速ニ御賛成ニナフテ、御決シアランコトヲ希望致シマス

○山本三太郎君(八十三番) 高橋君ノ提出案ニ私ハ賛成致シマス

(「賛成々々」ト呼フ者アリ)

○小室重弘君(八十八番) 高橋君ノ今ノ御説明ガ分リマセナシダガ、此法文ハ私ハ往ケナシト思ヒテ居ル、清浦君ノ御説ノ通り、議長ノ手許テ直スコトニシマスルナラバ、私ハ高橋君ノ修正ヲ賛成シタイト思ヒマス

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 高橋君ノ修正ヨリ決議ヲ採リマスル

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 委員會ノ修正モアリマスルニ依ツテ、決議ヲ採リマスル、高橋小十郎君ノ修正案ニ同意ノ諸君ハ起立

起立者 多數

○議長(楠本正隆君) 大多數、即チ高橋君ノ修正説ノ通決シマス、而シテ議

案ノ整理ハ議長ニ一任スルト承ツテ宜シウゴザイマスカ
(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

(吉本榮吉君「モウ是ハ確定議ニ爲シタノデアリマスカ」ト呼フ)

○議長(楠本正隆君) 然ラバ議案ノ整理ハ議長ニ於テ致シマスルコト、シマスル、別ニ御動議ナケレバ其他ハ委員會ノ修正案通確定ヲ報ジマス

○議長(楠本正隆君) 次ハ日程ノ第一、大阪府下郡廢置法律案

第二 大阪府下郡廢置法律案(政府提出)第一讀會ノ續(特別委員長報告)

(東尾平太郎君演壇ニ登ル)

大阪府下郡廢置法律案(政府提出)

第二讀會

○吉本榮吉君(八十二番) 此郡廢置法律案ハ澤山日程ガアリマスカ、委員長ノ報告ノ初ニ、通告ノ通知ガシテアルノハドレダケアリマスカ、先ニ承リタウゴザイマス
○議長(楠本正隆君) 四ツダケアリマス、其他ハ皆委員會ノ報告ニ別ニ反對モアリマセヌ

○吉本榮吉君(八十二番) 四ツモ反対ノ通告ガアリマスレバ、隨分議事ノ錯雜ヲ來シマセウト考ヘマスカラ、四ツヲ除クノ外ハ、讀會ヲ省略シマシテ直チニ確定スルコトニ本員ハ致シタイ、又委員長ノ報告モ、同一ノ委員長ナラバ最初登壇シタ折ニ一諸ニ報告ニナランコトヲ望ミマス

(「賛成々々」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 委員長ノ報告ヲ促シマスル——委員長代理橋本省吾君

○橋本省吾君(百十九番) 理事ノ秋岡君が出席テ居リマスカラ、私ガ代ツテ報告致シマス、尤モ此報告ハ極簡單デゴザイマスカラ、此席カラ御報道致シマス、大阪府郡廢置法律案、兵庫縣郡廢置及郡界變更法律案ニ就キマシテハ、本月ノ六日ト七日ノ二回委員會ヲ開キマシテ、總テ原案通可決致シマス、故ニ本會ニ於テモ原案通可決致シマス

○議長(楠本正隆君) 兹ニ於テ確メマスルガ、先刻、委員會ノ修正案ノ外別ニ修正説ノナイモノハ、皆讀會ヲ省略スベシト云フ吉本榮吉君カラノ動議ガ出テ居リマスル

○議長(楠本正隆君) 御異議ナシト認メマスル、因テ豫メ其通決シテ置キマス

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)
○長谷場純孝君(百三十二番) 私ハ通告ヲシテゴザイマセヌケレドモ、此議事日程ノ第十五——第十五ニハ二讀會ニ於テ修正ヲ加ヘル積デゴザリマス
○議長(楠本正隆君) 宜シウゴザイマス——大阪府下ノ郡廢置法律案ニハ修正ガゴザリマス、因テ是ハ二讀會ヲ開ク如何ノ決議ヲ採リマス

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 二讀會ヲ開クニハ御異議ナシト認メマス、因テ二讀會ヲ開クベキモノト決シマス
(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 而シテ議長ヨリ直チニ二讀會ヲ開クコトヲ請求致シマス

(東尾平太郎君)
—東尾平太郎君
(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○東尾平太郎君演壇ニ登ル
○東尾平太郎君(二百八番) 大阪府下外四縣郡廢置法律案ニ就キマシテハ、拙者ハ特別委員ノ一人デゴザイマシテ、委員會ニ於キマシテハ、既ニ此河内國南河内郡、中河内郡ノ處へ郡域變更ノ修正ヲ加ヘヤウト思ヒマシタ、政府ハ之ヲ取調ベルニ時日ガナイト云フコトデアリマスカラ、已ムヲ得ズ之ヲ委

員會ニ於テ撤回シマシテ、郡域ノ變更ヲスルト云フコトヲ止メマシテゴザイマス、併ナガラ茲ニ修正案ヲ出シマシタノハ、極ク一部ニ緊要ナル修正デゴザイマスカラ、願ハクハ諸君へ速ニ御贊成ニナラレンコトヲ希望致シマス、大坂府下郡廢置法律案ノ第二項デゴザイマス、唯修正ノ趣意ハ第一項中志紀郡ノ一部、即チ三木本村ヲ中河内郡ニ編入スルダケノ簡單ナル修正デゴザイマス、就キマシテハ此理由ヲ簡單ニ述べマスルガ、志紀郡ノ三木本村ノ一部ハ、元ト丹北郡ノ編入ニアッテ、新村設置ノ際ニ志紀郡ニ編入シマシタガ、其以來矢張元トノ郡ニ換ヘタイト云フコトハ多年ノ希望デゴザイマス、ソレデ南河内郡ノ郡役所ハ富田林ト云フ處ニ在リマシテ、中河内郡役所ハ八尾ト云フ處ニゴザイマス、然ルニ三木本村ヲ今南河内郡ニ編入サレマス、富田林郡役所ヘ三里半アリ、八尾郡役所ヘハ僅ニ三十町位デアリマス、此三木本村ト八尾トハ、實ニ商業上ノ取引、其他大イニ交通上ノ便利ヲ與ヘマス、若シ南河内郡ニ爲ルト、富田林郡役所ヘ三里半モアッテ不便ヲ感ジマスカラ、容易ナラヌ事デゴザイマス、シテ今假ニ此三木本村一村ヲ理由書ニ依リマシテ人口等ヲ取調べマシタガ、人口千四百五人、戸數ガ二百三十一戸、國稅ガ二千七百十圓、地方稅ガ五百四十二圓、村稅ガ四百六圓、是ダケノモノヲ此南河内郡ヲ除キマシテ中河内郡ノ方ニ編入シマス、斯ウ修正ヲ致シマシタ、以上ノ結果ハ、南河内郡、中河内郡ヲ比較シテ見ルトドウカト云フト、南河内郡ガ人口十万七千三十人、中河内郡ガ人口九万九千八百七十五人、又戸數ハ十六圓、町村稅ガ南河内郡ガ四万八千百八十九圓、中河内郡四万三千四百四圓、此村ヲ南河内郡ヨリ除ケマシテ中河内郡ニ加ヘマシテモ、此南河内郡ノ方が大體ニ大キウゴザイマスカラ、自治ノ力ニ就キマシテモ毫モ差支ハゴザイマセヌ、ソレデ此修正ニ就キマシテハ唯一村ノコトデ、政府ニ於キマシテモ敢テ差支ナイヤウニ聞イテ居リマスカラ、願ハクハ速ニ贊成確定議ヲセラレンコトヲ希望致シマス

○南野道親君(百二十二番) 私ハ東尾君ニ贊成デゴザイマスガ、此事ハ地方ノ精シイコトニ分ラナイ御方ハ、ドチラデアルカト云フコトニ御迷ヒデアラウト考ヘマスルガ、私ハ此三木本村ヲ中河内郡ニ加ヘルト云フコトハ最モ希望シテ居リマシテ、初期ノ議會以來既ニ請願ヲシテアルコトデゴザイマス、今東尾君ノ述ベラレマシタ如キコトハ、一村ヲ引換ヘマスルダケノコトデゴザイマスカラ、ドウカ満場ノ諸君ハ東尾君ニ御贊成ナルコトヲ希望致シマス

○議長(楠本正隆君) 修正文ヲ朗讀サセマス

(町田書記官朗讀)

大阪府河内國丹北郡大縣郡高安郡河内郡若江郡及瀧川郡ヲ廢シ其ノ區域ト志紀郡ノ一部(三木本村)トヲ以テ中河内郡ヲ置ク

員會ニ於テ撤回シマシテ、郡域ノ變更ヲスルト云フコトヲ止メマシテゴザイマス、併ナガラ茲ニ修正案ヲ出シマシタノハ、極ク一部ニ緊要ナル修正デゴザイマスカラ、願ハクハ諸君へ速ニ御贊成ニナラレンコトヲ希望致シマス、大坂府下郡廢置法律案ノ第二項デゴザイマス、唯修正ノ趣意ハ第一項中志紀郡ノ一部、即チ三木本村ヲ中河内郡ニ編入スルダケノ簡單ナル修正デゴザイマス、就キマシテハ此理由ヲ簡單ニ述べマスルガ、志紀郡ノ三木本村ノ一部ハ、元ト丹北郡ノ編入ニアッテ、新村設置ノ際ニ志紀郡ニ編入シマシタガ、其

以來矢張元トノ郡ニ換ヘタイト云フコトハ多年ノ希望デゴザイマス、ソレデ南河内郡ノ郡役所ハ富田林ト云フ處ニ在リマシテ、中河内郡役所ハ八尾ト云フ處ニゴザイマス、然ルニ三木本村ヲ今南河内郡ニ編入サレマス、富田林郡役所ヘ三里半アリ、八尾郡役所ヘハ僅ニ三十町位デアリマス、此三木本村ト八尾トハ、實ニ商業上ノ取引、其他大イニ交通上ノ便利ヲ與ヘマス、若シ南河内郡ニ爲ルト、富田林郡役所ヘ三里半モアッテ不便ヲ感ジマスカラ、容易ナラヌ事デゴザイマス、シテ今假ニ此三木本村一村ヲ理由書ニ依リマシテ人口等ヲ取調べマシタガ、人口千四百五人、戸數ガ二百三十一戸、國稅ガ二千七百十圓、地方稅ガ五百四十二圓、村稅ガ四百六圓、是ダケノモノヲ此南河内郡ヲ除キマシテ中河内郡ノ方ニ編入シマス、斯ウ修正ヲ致シマシタ、以上ノ結果ハ、南河内郡、中河内郡ヲ比較シテ見ルトドウカト云フト、南河内郡ガ人口十万七千三十人、中河内郡ガ人口九万九千八百七十五人、又戸數ハ十六圓、町村稅ガ南河内郡ガ四万八千百八十九圓、中河内郡四万三千四百四圓、此村ヲ南河内郡ヨリ除ケマシテ中河内郡ニ加ヘマシテモ、此南河内郡ノ方が大體ニ大キウゴザイマスカラ、自治ノ力ニ就キマシテモ毫モ差支ハゴザイマセヌ、ソレデ此修正ニ就キマシテハ唯一村ノコトデ、政府ニ於キマシテモ敢テ差支ナイヤウニ聞イテ居リマスカラ、願ハクハ速ニ贊成確定議ヲセラレンコトヲ希望致シマス

○議長(楠本正隆君) 多數、因テ東尾君ノ動議ノ通修正ニナリマシタ起立者多數

○議長(楠本正隆君) 多數、因テ東尾君ノ動議ノ通修正ニナリマシタ起立者多數

○東尾平太郎君(二百八番) 幸ニ滿場同意デ之ヲ可決セラレマシタガ、サウ致シマスルト此大坂府下即チ郡廢置法律案トアリマスル題號ヲ「大坂府下郡廢置及郡界變更法律案」ト換ヘテ戴キタイ、是ハ殊更ニ決議ヲ要シマスマイト思ヒマス

○政府委員(木内重四郎君) 此事ハ反対デハアリマセヌガ、今修正ニ就イテ一寸御注意マデニ申上ゲテ置キタ伊ト思ヒマス、是ハ郡界ノ變更デハアリマセヌ、一郡ノ中ニ在ル町村ヲ鄰ノ郡ニ分ツコトナレバ、郡界ノ變更デアリマスガ、本件ハマルデ現在ノ郡ヲ廢シテ新郡ヲ置クモノデアリマセヌ、且此二項ヲ東尾君ヲ「郡界變更」ト云フコトニ修正スル必要ハアリマセヌ

ノヤウニ修正致シマスト、續イテ第一項ノ方モ左ノ如ク修正シナケレバナラス、即チ「大坂府河内國石川郡、錦部郡、八上郡、古市郡、安宿部郡、丹南郡ヲ廢シ其ノ區域ト志紀郡ヲ廢シ其區域ノ一部(三木本ヲ除)ヲ以テ南河内郡置ク」ト修正スルノ必要ガアリマス

○東尾平太郎君(二百八番) 唯今ノ修正ノ結果トシテ、第一項ニ變動ヲシマスルノ方法ハ議長ニ一任シタイ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 御異議ナクハ、第一項ノ當然ノ修正ハ議長ニ一任ヲ請ヒ受ケマスル、別ニ御動議ナケレバ確定議ヲ報シテ宜シウゴザイマスカ

大坂府下郡廢置法律案(政府提出)

第三讀會

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○西村眞太郎君(百二十一番) 本員ハ此一頁ノ第七行ニアリマスル「多可郡ノ一部越知谷村」トアルコトヲ除クノデゴザイマス、其「神東郡及神西郡ヲ廢シ其區域ヲ以テ神崎郡ヲ置ク」ト云フコトニシタイ、此多可郡ト申スノハ……

○議長(楠本正隆君) 西村君ノ御通告ハ反対トアリマシタカラ、今發言ヲ許

シマシタガ、修正デアレバ二讀會ノ時ニシテ

○西村眞太郎君(百二十一番) ソレデハ其時ニ申シマス

○議長(楠本正隆君) 二讀會ヲ開ク如何ノ決議ヲ採リマス

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 御異議ナキヲ以テ一讀會ヲ開クト云フコトニ決シマス、前例ニ從フテ直チニ二讀會ヲ開クコトヲ請求シマス、而シテ以下郡廢置

二關スル法律ハ皆此例ニ倣フテ即時ニ二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザリマセ
ヌカ、御異議ナケレバ其通決シマス、他ハ皆此例ニ倣フテ致シマスル、第二
讀會ヲ開キマスル

兵庫縣下郡廢置及郡界變更法律案(政府提出)

第二讀會

多可郡ハ小サイノニ違ヒアリマセヌガ、多可郡ノ外ノ佐用郡、朝來郡、出石
郡ノ如キハ是ヨリ小サイモノガ、各々獨立フシテ居リマスカラ、越知谷村一
村ヲ分離シテモ、多可郡ノ獨立ニ害ガアルト云フコトハナイノデス、ソレデ
アルカラ原案ノ通御賛成アランコトヲ希望致シマス

(「賛成」ト呼フ者アリ)

○西村真太郎君(百六十一番) 簡單デスカラ是カラ述ベマス、多可郡ノ一部
越知谷村ヲ割イテ神崎郡ニ合スト云フコトニ爲シテ居ル、是ガ本員ガ選舉區
デアリマスカラ、能ク地形人情等モ承知フシテ居リマス、此事ニ就キマシテ
ハ或ハ其村ノ一二人ガ神東郡ノ方カラ遊説ヲ受ケテ、何カ運動ヲシツ、アル
ト云フコトヲ聞キマシタニ就イテハ、屢々内務省、縣知事ノ方ニモ其事情ヲ
具シタコトガアルノデス、テ、縣界ニ此村ガアルカラ、或ハ郡役所ノ便利カラ
云ヘバ神崎郡ニ比スレバ幾分カ道ガ近クナルカ知ラヌケレドモ、是迄長ク此
郡ノ時ハヤリ來タテ居ルノニ、纔カニ郡役所ニ往ク距離ノ半里位ノコトデ、之
ヲ割カナケレバナラヌト云フマデノ理由ハナイト信ズルノデアル、殊ニ多可
郡トカ申ス所ノ郡ハ山郡デアリマシテ、他ニ合併スルコトノ出來ナイ區域
ヲナシテ居リ、此郡ノ資力ハ至極乏シイノデアリマス、僅ニ人口ハ二万四千、
戸數ハ七千、地價ハ百七十萬シカナノデアル、之ニ反シテ神崎郡ハ人口ハ
五万五千、戸數ハ一万戸モアル、地價ハ三百万モアルノデゴザリマス、此資
力ノ乏シイ所ノ郡ノ一部ヲ割イテ大キナ處ニ附ケナケレバナラヌト云フマデ
ノ理由ハナイト固ク信ズルノデ、ソレ故ニ此多可郡ノ一部ヲ割クト云フコト
ヲ削シテ、矢張現郡ノ如ク存シ置キタイト云フ希望デアリマス、幸ニ満堂ノ
御賛成アランコトヲ希望致シマス

○議長(楠本正隆君) 修正文ヲ確メマス、サスレバ「其區域ヲ以テ神崎郡ヲ
置ク」ト云フ修正ニナリマスナ
○西村真太郎君(百六十一番) 其積リデス
○政府委員(木内重四郎君) 是ハ反對ヲ致シマス、此越知谷村ハ、地形上多
可郡ノ一部デハアリマスガ
(演壇ニ登ルベシト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 是ハ御出ニナリマスヤウニ……
(演壇ニ登ル)

○議長(楠本正隆君) 少數因テ西村君ノ修正案ニ就イテ決ヲ採リマス、右修正
案ニ同意ノ諸君ハ起立
起立者 少數

(「賛成」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 少數因テ西村君ノ修正案ハ消滅シマシタ原案ニ別段御
動議ガナクバ確定ト決シテ宜シウゴザイマスカ

第三讀會

○議長(楠本正隆君) 然ラバ原案通ニ決シマス——次ハ埼玉縣下國界變更及
郡廢置法律案——濱名信平君

第三讀會

○濱名信平君(百六十九番) 委員長ガ闕席デアリマスカラ、理事カラ報告ヲ
致シマスガ、豫テ修正ノ大意ハ報告ニモ見エマスル通デゴザリマスルガ、
埼玉縣ノ方ニハ原案ニ就キマシテ三箇所ニ修正動議ガ現レマシタケレドモ、
就モ是ハ少數デゴザリマシテ原案ニ決シタコトデゴザリマス、ソレカラ群馬
縣ノ方ニ至リマシテ郡ノ分合ニ就キマシテハ、原案ノ通りノ意見モナイン
デゴザイマス、郡名ニ就イテ一ソノ修正ガゴザイマスル、此郡名ノ修正ハ第
一項ニゴザリマス、勢馬郡ト云フコトニ原案ニハナツテゴザリマスルガ、是ハ
勢多郡ト致シマスルコトニ委員會ニ於テハ決シマシタ、其次第ハ餘程此勢多
郡ト云フコトハ同國ノ歴史ノ中ニモ載テ居リマシテ、今日ノ郡分合ノ際ト
ハ申シナガラ、此勢多ト云フ一字ヲ廢スト云フコトハ、地方人民ノ好マザル所
デアルト云フコトデ、是ハ審ニ委員會ノ意見ノミナラズ、地方人民ノ方カラモ
大分此勢多郡ヲ存スルコトニ就イテハ希望ヲ現シタ所ノ書面モ出テ居ルコト
デゴザリマス、故ニ是ハ勢多郡トスルト云フコトニ即チ委員會ガ一致デ決シ
ハ多可郡ノ方ニハ山ガアツテ、交通ガ不便デ日常ノ往來モ難義ト云フコトデ
ゴザリマス、一二ノ人ガ運動シタト云フヤウナコトガアルカナイカ、ソレ等
ノ事ハ内務省デハ少シモ存ゼヌコトデアルデス、知事ハ斯ク組換ヲスル方ガ
此村ノタメニ便利デアルト云フ上申デ、調査ヲ致シマシタ所ガ、此原案通ニ
スルノヲ適當ト認メタノデアルノデス、尤モ此神崎郡ト云フモノハ、大キナ
郡デアリマセウ、資力ヲ大キクスルガタメニ越知谷村ヲ併セル必要ハアリマ
セヌガ、此越知谷村ソレ自身ノ利益ノタメニ神崎郡ニ併セルト云フノデス、

第四 埼玉縣下國界變更及郡廢置法律案(政府提出)

第一讀會ノ續

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

(濱名信平君演壇ニ登ル)

第一讀會

○政府委員(木内重四郎君) 此越知谷村ハ鄰郡ノ今度神崎郡ト爲リマスカ、
神東郡、神西郡ノ方ニ近クテ、交通モ其方ニ致シテ居ルノデアリマス、本郡
ハ多可郡ノ方ニハ山ガアツテ、交通ガ不便デ日常ノ往來モ難義ト云フコトデ
ゴザリマス、一二ノ人ガ運動シタト云フヤウナコトガアルカナイカ、ソレ等
ノ事ハ内務省デハ少シモ存ゼヌコトデアルデス、知事ハ斯ク組換ヲスル方ガ
此村ノタメニ便利デアルト云フ上申デ、調査ヲ致シマシタ所ガ、此原案通ニ
スルノヲ適當ト認メタノデアルノデス、尤モ此神崎郡ト云フモノハ、大キナ
郡デアリマセウ、資力ヲ大キクスルガタメニ越知谷村ヲ併セル必要ハアリマ
セヌガ、此越知谷村ソレ自身ノ利益ノタメニ神崎郡ニ併セルト云フノデス、

独立覺束ヌト云フ委員會ノ見込デゴザリマス、其點ニ就キマシテ町村數量ニ
戸數、人口等カラ比例致シマシテモ、他ノ獨立致シテ居リマスル郡ニ比較致シ
マシテ、町村數ノ如キハ既ニ三分ノ一、又人口ノ如キモ他ノ獨立ノ郡ニ比スレ

バ十分ノ四位ノ比較ニナツテ居リマス、旁々是ハ長狹郡ヲ廢シマシテ此第一項ノ中ノ區域ノ中ニ加ヘルト云フコトニ全會一致ノ意見デ、決議ヲ致シマシ

タノデゴザリマス、其他柄木、茨城此二縣ニ就キマシテハ原案通別段反對ノ意見モゴザリマセヌデ、決シマシタ次第デゴザリマス、委員會ノ修正ニハ御

賛成アルヤウニ希望致シマスル

○議長(楠本正隆君) 二讀會ヲ開ク如何ノ決議ヲ採リマス

〔「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(楠本正隆君) 異議ナキヲ以テ二讀會ヲ開クコトニ致シマス、即チ讀會ヲ省略致シテ直チニ會議ニ付シマス——福田久松君

埼玉縣下國界變更及郡廢置法律案(政府提出)

確定議

(福田久松君演壇ニ登ル)

○福田久松君(八十四番) 是ヨリ私ハ修正案ノ意見ヲ申上グマス、修正ノ意見ヲ提出シテ置キマシタノハ、秩父郡ノ中名栗村、吾野村此二箇村ヲ割キマシテ入間郡ニ編入シタイト云フノガ一ツ、ソレカラモウ一ツハ、埼玉縣大里郡ノ中吉見村ヲ割キマシテ比企郡ニ編入シタイト云フノガ一ツ、此二ツデゴザイマス、尤モ委員會ニ於キマシテハモウ一ツ修正案ヲ出シマシタガ、是ハマダ詳細ナ取調ヲ要シマス故、唯今ハ控ヘテ居リマス、此二ツノ理由ニ於テ少シク申上ゲテ置キタウゴザイマスル、勿論是ニハ反對ノ御意見モ多クアルマイ思ヒマスルカラ、委シクハ申上ゲマセヌ、先づ此秩父郡ノ中ノ吾野村——吾野村ヲ割イテ入間郡ニ編入スルニ於キマシテハ、御承知ノ如ク秩父ト云フ所ハ山デゴザイマス、此二箇村ハ外ト秩父ト申スノデゴザイマス、ソレデ秩父郡ノ大宮ニ在ル所ノ郡役所ノ管轄ヲ受ケテ居リマスルノデ、郡役所ハ參ルニモ時ヲ越サナケレバ參レヌノデゴザイマス、是ハ入間郡ニ編入致シマシテ入間郡川越町ニ在ル所ノ郡役所ノ管轄ヲ受ケサセマスト云フト、遠クモゴザイマセヌデ道ガ二里程近クナル、斯様ナ便利ガゴザイマス、ソレ故ニ其土地ノ人民ハ、第一議會以來第四議會マヂモ續ケテ請願書ヲ出シテ居ル、又此度モ請願書ヲ出シテ居ルノデゴザイマスル、此一事ヲ以テモ、是ハ入間郡ニ編入シテ川越ニ在ル所ノ入間郡ノ郡役所ノ受ケサスルト云フコトハ、勿論至當ナコトデアルノデゴザイマスル、地理ハ右申上ゲマスルヤウナコトデゴザイマスルカラシテ、入間郡ノ中唯今デハ高麗郡、今度入間郡ニ爲ルベキ所ノ飯野町ノ警察署ノ所管ニ爲ツテ居ルノデゴザイマス、秩父郡ニ在リナガラ矢張入間郡ニ在ル所ノ警察署ノ所管ニナツテ居ルノデ、此事ヲ以テモ此二箇村ト云ルモノハ勿論是ハ入間郡ニ編入スルト云フコトハ至當ナ譯デゴザイマス、其他越三通行スルトカ、東京ニ通行スルトカ云フヤウナコトニ至ツテモ、勿論是ハ入間郡ニ編入シナケレバナラヌコトハ分ツテ居リマス、委シイコトハ申シマセヌ、斯様ナ次第デゴザイマスカラ、勿論政府

ニ於テモ是ハ同意ナコトデアラウト思ヒマスル、唯取調ガ粗漏ニアツテ、是ガ編入換ヘニナラヌト云フニ止マルコトデアラウト思ヒマスル、ソレ故ニ事柄ハ委クハ申上グマセヌ、モウ一ツ申上ゲテ置キマスルノハ、大里郡ノ吉見村デ、是又比企郡ヘ編入スルト云フコトハ、是ハ又尙更比企郡ニ編入シナケレバナラヌノデゴザイマス、過日内務次官ノ説明中ニモ、行政上ノ便利ヲ主トスルヤウデゴザイマス、然ルニ此儘置キマスルト云フト、此吉見村ト云フノ比企郡ノ松山ニ在ル所ノ郡役所ノ所管ヲ受ケサセマスルト云フト、道モ一里餘モ近クナリ、川モゴザリマセズ、斯ノ如キ便利ガアルノデゴザイマスル、一里バカリ近クトモト云フ仰ガゴザイマスルカ知レマセヌガ、此吉見村カラ熊ヶ谷ヘ参ルニハ、川ガアツテ漸ク二里カ二里半デゴザイマス、モウ一ツ申上ゲテ置キタイノハ、是ハ從來此邊ヲ吉見領ト申シタノデ、大里郡ノ吉見村一箇村、ソレカラ横見郡ト云フニ四箇村デゴザイマス、此五箇村ト云フモノハ從來吉見領ト申スルコトハ、地形上離ルベカラザル地形ニナツテ居リマス、其地荒川ニ就テノ水利上ニ於テモ、ドウシテモ是ハ比企郡ニ屬サスルト云フノハ至當ナ地理ニ爲ツテ居リマス、殊ニ此一箇村ヲ比企郡ト横見郡ト併セテ、元ト比企郡ト爲ツテ居リマスルノデゴザイマスルガ、其比企郡ノ中ニ殆ド比企ニ餘計ニ入込シテ居ルノデゴザイマスル、地形ニ於キマシテモ是ハ比企郡ヘ編入スルコトハ至當ト思フノニ、此今私ノ修正二ツガ政府案ト爲ツテ出タ時分ニハ……此點ハ調査ノ粗漏ト私ハ認メルノデゴザイマス、ドウカ此二ツニ就キマシテハ前申上ゲルヤウナ次第デゴザイマスカラ、御贊成アランコトヲ偏ニ希望致シマス

○議長(楠本正隆君) 修正案ヲ朗讀サセマス

(町田書記官朗讀)

埼玉縣下國境變更及郡廢置法律案中左ノ通修正ス

同法律第二項高麗郡ヲ廢シノ下ニ「同縣同國秩父郡ノ一部(吾野村名栗村ヲ割キ)ノ十九字ヲ插入ス

同第三項中横見郡ヲ廢シノ下ニ「同縣同國大里郡ノ一部(横見村ヲ割キ)ノ十六字ヲ插入ス

○議長(楠本正隆君) 修正案ニハ定數ノ贊成ガゴザイマス、湯本君ノ反對ノ通告ガゴザイマス——湯本義憲君

○湯本義憲君(百六十五番) 私ハ此事ニ就キマシテハ極簡單ニ反對ヲ表シテ置キマス、此席ニ於キマシテ申シテ置キマス

(「演壇」ト呼フ者アリ)

ノ御説ノ如キ場合ガアルカモ知レマセヌ、併ナガラ此事タルヤ隨分其地方ニ於キマシテハ議論モアリマスルコト、私ハ推測ヲ致シテ居リマス、又大里郡ノ一部ヲ割キマシテ吉見村ニ入レマスルト云フコトニ就キマシテハ、是ハ最モ私ハ反對ヲ表サナケレバナラヌ、此吉見村ニ於キマシテハ成程地形上ニ於キマシテハ荒川ト云フモノヲ界シテ居ルト云フコトハ、唯今修正提出者ヨリ論ズル如クデハアル、併ナガラ此問題タルヤ第二讀會ノ際ニ政府提出案ト爲ツテ居リマス、其時分ヨリ既ニ此地方ニ於テ言ツテモ(福田久松君「ソンナ事ハナイ」ト呼フ)マア御控ヘナサイ、後トテ御辯駁ヲ願ヒタ、地方ニ於キマシテモ種々紛議ノゴザイマスル處デ、成程横見郡ノ方ニ於キマシテハ、之ヲ通サントスルノ運動モソレハ、ゴザイマスナレドモ、其吉見村ニ於キマシテハ是ハ數村アリマス、其村方ニ於キマシテハ大里郡ト離ルベカラザル地形デアル、從來歴史上ノ關係アルタメニ大里郡ニ存スルコトヲ、既ニ運動モ致シテ居リマスル位ノ場合デアル、果シテ其修正説提出者ノ如キ便利デアツタナラバ、其土地ノ者ガ望ム筈デアル、又此法案ヲ仕組マレルニ於キマシテモ委員會ニ於キマシテモ、既ニ質問ヲ致シテ見マスル所ガ、地方知事ノ具申ニ依ツテ斯ノ如ク仕組ンダリト云フコトヲ言フテ居ル、又地方知事ニ於キマシテモ、固ヨリ行政ノ便利ヲ得ルト云フコトハ當然ノ事デアル、然ルニモ拘ラズ之ヲ大里郡ニ存シテ置クト云フコトハ、實ニ地方ノ事情已ムヲ得ザル所ノ場合ヨリ之ヲ存シテ置キマシタノデゴザイマス、ドウカ是ハ原案ノ如ク御据置キアランコトヲ切望スル一人デゴザイマス故ニ、是タケ申シテ置キマス。

(政府委員内務書記官木内重四郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(木内重四郎君) 政府ガ調査ノ疎漏ト云フヤウナ御説モアリマシタケレドモ、決シテ疎漏ノ調査トハ思シテ居ラヌノデ、此大里郡ノ一部吉見村ヲ比企郡ニスルト云フコトハ、少モサウ云フ請願ハ出テ居ラヌ、又知事モ上申シタコトハナイヤウニ見エテ居ル、而シテ第一議會ノ法案ヲ提出シタトキニ、委員會ノ修正モ矢張今日出シタル原案ト同様デアル、若シ福田君ノ言フヤウナコトガ必要デアルナラバ、其時政府モ無論サウ云フ調査ヲセナケレバナラヌガ、委員會ノ方モ、福田君ノヤウナ説ガアリサウナモノデゴザイマス、然ルニ今日提出シタル原案ノ如ク可決致シテ居ル所ヲ見テモ、大里郡ノ一部ヲ比企郡ニ編入スペカラザルコトハ明カト思フ、ソレカラ秩父郡ノ一部ヲ入間郡ニ編入スルコトハ、第一議會ノ委員會デハサウ云フコトガアツタケレドモ、知事ノ上申ニ依ルト、此村ハ舊七箇村カラ成立シテ居ル一小部分デ、外ト秩父ト云フテ入間ノ方ヘ近イサウデスガ、其大部分ハ入間ニ這入ルコトニ反対デアルト云フコトデアル、ソレガタメニ知事ノ云フコトニ就イテ編制シタノデ、原案ノ通賛成アランコトヲ希望シマス

○福田久松君(八十四番) 請願書ガ一部ダト仰シャルカラ質問致シタ、本員ガ取次イダノハ全村殘ラズ戸主ト云フモノハ調印シテ出シタノヲ取次イデ居ルガ、ソレデモ一部ダト仰シャルノデスカ

立

起立者 少數

○議長(楠本正隆君) 少數、因テ福田君ノ修正説ハ消滅致シマシタ、原案ニハ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 御異議ナキヲ以テ原案ノ通確定ヲ報ジマス、次ハ第五、群馬縣下郡廢置及郡界變更法律案

第五 群馬縣下郡廢置及郡界變更法律 第一讀會ノ續(特別委員)

案(政府提出)

○真下珂十郎君(二百四十二番) 本員ハ委員長ノ報告ニ賛成アル者デゴザイマス、全體此群馬縣ノ分合ニ就キマシテハ種々ナル議論ガゴザイマシタデゴ

市街地ガゴザイマシテ、各々獨立致サントコトデゴザイマスケレドモガ、今日ノ場合ニ相成シテ見マスルト云フト、一市街ヲ繫ギマス便利ガ成立シテ居ルデゴザイマス、別段之ヲ分ケル必要ガナイト思ヒマスルカラシテ、是ハ勿論修正ノ通デ宜カラウト考ヘマスルデゴザイマス、又此勢多郡ヲ置クト云フコトデアリマスガ、是ハ古イ所ノ歴史ヲ持ツテ居ル所ノ郡デゴザイマスルガタメニ、勢多郡トスルノガ最モ相當デアラウト思フデゴザイマス、群馬郡ト云フモノハ、西群馬郡ト申スモノガ今度新ニ群馬郡ト爲リマンシタナラバ、是以テ満足デアラウト思ヒマス、大體委員長ノ報告ヲ是認スルモノデゴザイマス、速ニ讀會ヲ省略シテ可決アランコトヲ望ミマス

○議長(楠本正隆君) 讀會ヲ省略シテ決ヲ採リマス、第一項ノ委員會ノ修正ニハ御異議アリマセヌカ

法律案

群馬縣下郡廢置及郡界變更法律案(政府提出)

確定議

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 御異議ナシト認メマス、其他ハ御動議ナキヲ以テ原案ノ通決定致シマス、即チ該案ノ確定ヲ報ジマス、次ハ第六、千葉縣下郡廢置

法律案

第六 千葉縣下郡廢置法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(特別委員)

○議長(楠本正隆君) 是レ亦讀會ヲ省略シマス——委員會ノ修正ハ異議ナシト認メマス

千葉縣下郡廢置法律案(政府提出)

〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ

- 議長(楠本正隆君) 卽チ委員會ノ修正案通該案ノ確定ヲ報ジマス、次ハ第七、茨城縣下郡廢置及郡界變更法律案、該案ハ委員會以外ノ修正ガアリマス

第七 茨城縣下郡廢置及郡界變更法律案

- 議長(楠本正隆君) 二讀會ヲ開ク如何ノ決議ヲ採リマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

- 議長(楠本正隆君) 御異議ナキヲ以テ二讀會ヲ開クニ決シ、前例ニ從ツテ直ニ二讀會ヲ開キマス

茨城縣下郡廢置及郡界變更法律案(政府提出)

第二讀會

- 野口勝一君(二百九十一番) 此本案ハ結城田郡、ソレカラ葛島郡、信河郡ノ此三郡ニ爲シテアリマスガ、結城郡、岡田郡、豊田郡ヲ併セタカラ、此岡

- 田、豊田ノ田ノ字ヲ取シテ結城田トシタノデアラウ、併シ此結城郡ト云フモノハ歴史ノ上ニモ餘程名高イ名義デ、生産ノ上ニモ名高イ名義デ、此生産ニ

- 名高イ名義ヲ以テ結城田ト致シマスルノハ名稱ニ於テ不當ト思ハレル、且ツ又此結城田ト云フヤウナ三字ノ郡名ト云フモノハ是ハ全國中ニ誠ニ少イ、元

- 來此郡ヲ置クト云フモノハ、古イ時代ノ歴史ニ郡ハ美ナル字ヲ以テ二字ニ定メルト云フ定メガアル、其以後ニ爲シテ、東、西、南、北ト云ヒ或ハ上下ナシド云フノハ、全ク名稱ノ上ニ添ヘタモノデアルカラ、ソレハ別ナモノトシテ見マスルト、此三字名ノアルト云フモノハ鹿兒島ニ鹿兒島郡、ソレカラ相模ニ久良岐郡此二郡ヨリ外全國中ニモナイ、併シ結城田ノヤウナ穩當ノ名稱デナイカラ、名稱ノ上カラ謂シテモ甚ダ結城田ハ不都合ニ思ハレルデ、此生

- 產ト云ヒ歴史ト云ヒ、全國ノ人ニモ結城ト云フ名前ヲ知ラヌ所ノナイノデアルカラ、結城郡トシタイト云フ意見デアリマス、ソレカラ其次ニ葛島郡ヲ猿

- 島郡ト改メタイ、是ハ猿島郡ト云フモノハ千年以上ノ古イ名稱ニナシテ居ル、葛島モ隨分有名ナモノデアル、併シ葛島ハ千葉縣ニモ既ニ葛飾郡ト云フ名ガ存シテ居ルカラ、茲ニ葛飾ノ名ハ存スル必要ガナイ、因テ其古イ歴史ノ名稱ヲ存スルタメニ、矢張此郡ハ猿島郡ト稱ヘルガ至當ナモノデアル、ソレカラ

- 此信河郡ハ河内郡トソレカラ信太郡ノ二郡ヲ併セテ信河郡ト附ケタノデアラウケレドモ、是ハ併シ全ク二郡併セテ列ネテ謂シタト云フダケニ止マシテ意味ノナイ話デアル、此處ハ昔シ稻敷郡ト稱ヘ、古歌ニモ稻敷ト云フコトガ殘テ居ル、ソレデ今信河ト云フヤウナ名前ヲ俄ニ捨ヘルヨリハ、既ニ其常陸ノ國デハ古書ニモ存シテ居ル稻敷ト云フ名前ヲ取シテ、此處ニ置クノガ至當ナモノデアル、此三郡ニ對シテハモウ斷ジテ此結城郡、ソレカラ猿島郡、稻敷郡ト定メルガ適當デアルカラ、斯ウ云フ風ニ此三郡ヲ改メタイト考ヘル、成ルタケ此本文通ニシテ名稱ヲ改メル丈ノコトデアリマス、ドウカ滿場ノ御贊

確定議

〔贊成々々〕ト呼フ者アリ

- 新井毫君(四十八番) 唯今修正動議者ガ提出……

- 議長(楠本正隆君) 朗讀致シマス

第一讀會ノ續

茨城縣「結城田郡」トアルヲ「結城郡」ト改ム

〔葛島郡〕トアルヲ「猿島郡」ト改ム

〔信河郡〕トアルヲ「稻敷郡」ト改ム

- 新井毫君(四十八番) 唯今修正ハ動議者ノ理由ヲ述ベラレタ如ク、此歴史上ニ於テ名高イ所ヲ存スルト云フコトハ、最モ希望スル所デアリマスカラ贊成ヲ致シマス

〔町田書記官朗讀〕

〔贊成々々〕ト呼フ者アリ

- 議長(楠本正隆君) 定數ノ贊成ガアリマスカ

〔贊成々々〕ト呼フ者アリ

- 議長(楠本正隆君) 是ニ於テ決議ヲ採リマス、野口勝一君ノ修正ニ同意ノ諸君ハ起立

起立者 多數

- 議長(楠本正隆君) 多數、因シテ野口君ノ修正通りニ決シマスル、其他ハ原案通り決定致シマシタ

茨城縣下郡廢置及郡界變更法律案(政府提出)

確定議

- 議長(楠本正隆君) 而シテ別段御異議ナケレバ該案ノ確定ヲ報ジマス、次ハ第八、砺木縣下郡廢置法律案、是ハ讀會ヲ省略シテ決議ヲ採リマス

第八 砺木縣下郡廢置法律案(政府提出)

確定議

- 谷河尙忠君(十番) 委員會デハ福島縣下外巖手、富山、鳥取、島根四縣ヲ一緒ニ審査致シマシタカラ、五縣ヲ残ラズ御報告ニ及ビマスル、先づ第一福島縣ノ郡ノ廢置法律案ニハ修正致シマシタ、其修正ハ第一項ノ中檜葉郡ヲ廢シ、其區域ノ一部「川前村」ト云フ字ヲ削リマシタ、此修正ノ趣意ハ元ト此原案ニハ川前村ト云フモノハ、他ノ郡ヲ割イテ此郡ニ編入シテアリマス、所ガ

- 段々地方ノ様子ヲ聞キ、又政府ノ説明ヲ得テ其地方村會等ノ様子ヲ聞キマシ

第九 福島縣下郡廢置法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(特別委員)

(谷河尙忠君演壇ニ登ル)

タ所ガ、此川前村ト云フモノハ磐城郡ニ編入シテ、田ノアル所ハ極聊ナ事デ、其川前村ノ多分ガ矢張元ノ櫛葉郡ニ編入スル方ガ宜イト云フコトニ就キマシテ、委員會デハ斯様ニ修正致シマシタ、ソレカラ其廉ヲ以チマシテ転テ第二項ヲ修正致シマシタ、是ハ第一項ニ於テ川前村ト云フモノヲ元ノ櫛葉郡ヘ加ヘマシテ、別ニ一郡トスルガタメニ自然ト此二項モ修正スルコトニ爲リマシタノデ、此櫛葉郡ハ標葉郡ト書キマシタ、此二郡ヲ併セテ今度ハ一郡トスル、之ヲ一郡トスルニ就キマシテハ、原案ニハ雙葉郡ト郡名ヲ定メマシタケレドモ、段々地方ノ様子ヲ聞キマスレバ、此邊ハ將來紫波郡ト書イテ紫波郡ト修正シタノデゴザリマス、ソレカラ其次ハ巖手縣下デアリマス、是ニハ請願書が出テ居リマスガ、此請願書ハ南巖手、北巖手、紫波ノ三郡ヲ合併シテ一郡ニシタイト云フ請求デアリマス、原案ニハ南巖手、北巖手ト併セテ巖手郡ニシテ、紫波郡ハ獨立セシムルト云フ原案デアリマス、其請願ノ趣意ハ、是マデ南北巖手、紫波ノ三郡ヲ合併シテ一行政區域トシテアツカラ、矢張其儘デ今度モ一郡トスル方ガ宜イ、其宜イト云フ譯ハ、自然郡ノ力ガ大キクテ居レバ、總テノ事業ニ對シ大ニ勢力ガアルカラ、是マデノ通ニ一郡區ニシテ置ク方ガ宜イ、且ツ又郡ト郡トノ界モ、或部ニ於テハ所謂田ノ畦界ト云フヤウナ所モアルカラ、三郡合併シテ居ル方ガ宜イト云フノデ、請願書が出テ居リマスル所ガ、其請願書ハ三郡一致ノ請願書デハナイ、紫波郡ノアル一部ノ人ト、南北巖手ノ人ガ同意シテ請願ヲ出シテ居リマスカラ、之ガタメニ又紫波一部ノ方カラモ委員杯ガ出來テ、ドウカ原案ノ通過スルヤウニト云フヤウナコトヲ運動シテ居ルヤウナモノモアリマスルコトガ自然、委員ノ方ヘモ開エマシテ、サウ云フコトデアツテ見レバ、固ヨリ紫波ノ一郡ガ獨立ノ出來ナイト云フ郡デモナク、又巖手郡ノ方ハ紫波郡ヲ合併シナケレバ維持ガ出來ナイト云フ郡デモナク、又巖手郡ノ方ハ紫波郡ガ一郡アツカラシマス、其請願ガ出テ居リマスガ、然ルニ此富山縣ノ請願ガ、是マデ礪波郡ガ一郡アツカラモノヲ今度東西二郡ニ分ツト云フノデ、其請願ノアルニモ拘ラズ、原案ノ通ニヤウ、東礪波、西礪波、南礪波、斯様ニ分ケル方ガ宜シイト云フ請願デアリマスル、段々繪圖ヲ見、其他調査致シテ見マシタ所ガ、元來此礪波郡ハ北ヨリ南ニ長イ郡デアツテ、其中南ノ方ハ所謂山ノ多イ縣デアリマシテ、此方ハ村落ノ稠密ナ郡デアリマス、所ガ、今度原案ニ二郡ニ割クト云フノハ、北ヨリ南ヘ二ツニ分ケマシテ、所謂小矢部川ノ流域ヲ西礪波郡トシ、庄川ノ流域ヲ東礪波郡トサウ云フヤウニ定メマシタ、元來此礪波郡ハ此前ニ郡分合ノ法案ノ出マシタ節モ色々論ノアツタ末、何分此部ヲ割クトハ不都合デアツタ、所ガ、今度段々此二郡ニスルト云フコトカラシテ、到底二郡ニスルナラバ、三郡ニスル方ガ宜シイト云フ請願デアリマスルガ、其三郡ニシヤウト云フ請願ヲ見マスレバ、此礪波郡ノ中ノ山手ノ方ヲ一郡トシ、村落ノ稠密ナ

方ヲ又東西ト分チテ、ソレデ三郡ニシヤウト云フノデアリマス、且ツ其請願スル所ノ發起人モ、村落ノ稠密ナル西礪波、東礪波アタリガ發起人デアリマス、若シ之ヲ三郡ニ分ツトナレバ、一方ノ南礪波郡ハマルデ山續キノ方ノ村ガ殘ルヤウナ形ニ爲リマス、サウ云フヤウナ事柄デアル、且ツ又段々是マデヘ加ヘマシテ、別ニ一郡トスルガタメニ自然ト此二項モ修正スルコトニ爲リマシタノデ、此櫛葉郡ハ標葉郡ト書キマシタ、此二郡ヲ併セテ今度ハ一郡トスル、之ヲ一郡トスルニ就キマシテハ、原案ニハ雙葉郡ト郡名ヲ定メマシタケレドモ、段々地方ノ様子ヲ聞キマスレバ、此邊ハ將來紫波郡ト書イテ紫波郡ト修正シタノデゴザリマス、ソレカラ其次ハ巖手縣下デアリマス、是ニハ請願書が出テ居リマスガ、此請願書ハ南巖手、北巖手、紫波ノ三郡ヲ合併シテ一郡ニシタイト云フ請求デアリマス、原案ニハ南巖手、北巖手ト併セテ巖手郡ニシテ、紫波郡ハ獨立セシムルト云フ原案デアリマス、其請願ノ趣意ハ、是マデ南北巖手、紫波ノ三郡ヲ合併シテ一行政區域トシテアツカラ、矢張其儘デ今度モ一郡トスル方ガ宜イ、其宜イト云フ譯ハ、自然郡ノ力ガ大キクテ居レバ、總テノ事業ニ對シ大ニ勢力ガアルカラ、是マデノ通ニ一郡區ニシテ置ク方ガ宜イ、且ツ又郡ト郡トノ界モ、或部ニ於テハ所謂田ノ畦界ト云フヤウナ所モアルカラ、三郡合併シテ居ル方ガ宜イト云フノデ、請願書が出テ居リマスル所ガ、其請願書ハ三郡一致ノ請願書デハナイ、紫波郡ノアル一部ノ人ト、南北巖手ノ人ガ同意シテ請願ヲ出シテ居リマスカラ、之ガタメニ又紫波一部ノ方カラモ委員杯ガ出來テ、ドウカ原案ノ通過スルヤウニト云フヤウナコトヲ運動シテ居ルヤウナモノモアリマスルコトガ自然、委員ノ方ヘモ開エマシテ、サウ云フコトデアツテ見レバ、固ヨリ紫波ノ一郡ガ獨立ノ出來ナイト云フ郡デモナク、又巖手郡ノ方ハ紫波郡ヲ合併シナケレバ維持ガ出來ナイト云フ郡デモナク、又巖手郡ノ方ハ紫波郡ガ一郡アツカラシマス、其請願ガ出テ居リマスガ、然ルニ此富山縣ノ請願ガ、是マデ礪波郡ガ一郡アツカラモノヲ今度東西二郡ニ分ツト云フノデ、其請願ノアルニモ拘ラズ、原案ノ通ニヤウ、東礪波、西礪波、南礪波、斯様ニ分ケル方ガ宜シイト云フ請願デアリマスル、段々繪圖ヲ見、其他調査致シテ見マシタ所ガ、元來此礪波郡ハ北ヨリ南ニ長イ郡デアツテ、其中南ノ方ハ所謂山ノ多イ縣デアリマシテ、此方ハ村落ノ稠密ナ郡デアリマス、所ガ、今度原案ニ二郡ニ割クト云フノハ、北ヨリ南ヘ二ツニ分ケマシテ、所謂小矢部川ノ流域ヲ西礪波郡トシ、庄川ノ流域ヲ東礪波郡トサウ云フヤウニ定メマシタ、元來此礪波郡ハ此前ニ郡分合ノ法案ノ出マシタ節モ色々論ノアツタ末、何分此部ヲ割クトハ不都合デアツタ、所ガ、今度段々此二郡ニスルト云フコトカラシテ、到底二郡ニスルナラバ、三郡ニスル方ガ宜シイト云フ請願デアリマスルガ、其三郡ニシヤウト云フ請願ヲ見マスレバ、此礪波郡ノ中ノ山手ノ方ヲ一郡トシ、村落ノ稠密ナスル所ノ發起人モ、村落ノ稠密ナル西礪波、東礪波アタリガ發起人デアリマス、若シ之ヲ三郡ニ分ツトナレバ、一方ノ南礪波郡ハマルデ山續キノ方ノ村ガ殘ルヤウナ形ニ爲リマス、サウ云フヤウナ事柄デアル、且ツ又段々是マデヘ加ヘマシテ、別ニ一郡トスルガタメニ自然ト此二項モ修正スルコトニ爲リマシタノデ、此櫛葉郡ハ標葉郡ト書キマシタ、此二郡ヲ併セテ今度ハ一郡トスル、之ヲ一郡トスルニ就キマシテハ、原案ニハ雙葉郡ト郡名ヲ定メマシタケレドモ、段々地方ノ様子ヲ聞キマスレバ、此邊ハ將來紫波郡ト書イテ紫波郡ト修正シタノデゴザリマス、ソレカラ其次ハ巖手縣下デアリマス、是ニハ請願書が出テ居リマスガ、此請願書ハ南巖手、北巖手、紫波ノ三郡ヲ合併シテ一郡ニシタイト云フ請求デアリマス、原案ニハ南巖手、北巖手ト併セテ巖手郡ニシテ、紫波郡ハ獨立セシムルト云フ原案デアリマス、其請願ノ趣意ハ、是マデ南北巖手、紫波ノ三郡ヲ合併シテ一行政區域トシテアツカラ、矢張其儘デ今度モ一郡トスル方ガ宜イ、其宜イト云フ譯ハ、自然郡ノ力ガ大キクテ居レバ、總テノ事業ニ對シ大ニ勢力ガアルカラ、是マデノ通ニ一郡區ニシテ置ク方ガ宜イ、且ツ又郡ト郡トノ界モ、或部ニ於テハ所謂田ノ畦界ト云フヤウナ所モアルカラ、三郡合併シテ居ル方ガ宜イト云フノデ、請願書が出テ居リマスル所ガ、其請願書ハ三郡一致ノ請願書デハナイ、紫波郡ノアル一部ノ人ト、南北巖手ノ人ガ同意シテ請願ヲ出シテ居リマスカラ、之ガタメニ又紫波一部ノ方カラモ委員杯ガ出來テ、ドウカ原案ノ通過スルヤウニト云フヤウナコトヲ運動シテ居ルヤウナモノモアリマスルコトガ自然、委員ノ方ヘモ開エマシテ、サウ云フコトデアツテ見レバ、固ヨリ紫波ノ一郡ガ獨立ノ出來ナイト云フ郡デモナク、又巖手郡ノ方ハ紫波郡ヲ合併シナケレバ維持ガ出來ナイト云フ郡デモナク、又巖手郡ノ方ハ紫波郡ガ一郡アツカラシマス、其請願ガ出テ居リマスガ、然ルニ此富山縣ノ請願ガ、是マデ礪波郡ガ一郡アツカラモノヲ今度東西二郡ニ分ツト云フノデ、其請願ノアルニモ拘ラズ、原案ノ通ニヤウ、東礪波、西礪波、南礪波、斯様ニ分ケル方ガ宜シイト云フ請願デアリマスル、段々繪圖ヲ見、其他調査致シテ見マシタ所ガ、是モ矢張請願ガ出テ居リマシテ、兩郡トモ合併セズニ獨立スルト云フ所ノ請願デアリマシテ、是モ段々其請願ノ趣意ヲ調査シ、又地方ノ委員ノ考ヲモ開キマシタ所ガ、是モ矢張二郡合併シテハ將來ノ治リモ附カヌ、且ツ又自然ノ勢、人情風俗モ異シテ居ル、ソレガタメニ既ニ裁判所ノ如キモ、一方ハ松江裁判所ノ管轄ニ居リ、一方ハ濱田裁判所ノ管轄ニ居ルト云フヤウナコトデ、自然此二郡モ獨立スル方ガ宜シイト云フ考カラ、委員會デハ之ヲ矢張獨立セシムルコトニ修正致シタノデアリマス、モウ一ツ島根縣ニ仁多、大原、飯石ノ二郡合併ト云フ請願モ出テ居リマシテ、矢張委員會デハ其事ニ同意ノ意見モ出マシタケレドモ、此請願が固ヨリ僅ニ其三郡ノ中央ニ位スル所ノ若干ノ人が此請願ヲ出シタノデ、全ク三郡全體ノ希望ト云フコトデハナイト云フコトアルヲ「簸川郡」ト修正致シマシタ、以上是ダケヲ御報道致シマス○議長(楠本正隆君) 福島縣下ノ部分ニハ委員會ノ修正ガアリマスル○吉本榮吉君(八十二番) 委員會ノ修正ニ異議アリマセヌ(「異議ナシ異議ナシ」と呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 反對ト云フ御聲ガナケレバ、委員會ノ修正ニ決シマス○小鷹狩元凱君(二百六十三番) 福島縣下ノコトニ反對ハゴザリマセヌカ

○議長(楠本正隆君) 今ハ福島縣ノ分デス、即チ讀會ヲ省略シテ直チニ委員會ノ修正案該案通該案ノ確定ヲ報ジマス次ハ第十、巖手縣ノ部分原案ノ通デス

第十 巖手縣下郡廢置及郡界變更法律案(政府提出)

確定議

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(楠本正隆君) 異議ナキヲ以テ是レ亦確定ヲ報ジマスル——次ハ富山縣ノ分修正ハアリマセヌ

第十一 富山縣下郡分離及廢置法律案(政府提出)

確定議

〔異議ナシノ聲起ル〕

○議長(楠本正隆君) 原案ノ通り異議ナキヲ以テ確定ヲ報ジマスル——次ハ鳥取縣下ノ分

第十二 鳥取縣下郡廢置法律案(政府提出)

確定議

〔異議ナシノ聲起ル〕

○議長(楠本正隆君) 異議ナキヲ以テ原案ノ通確定ヲ報ジマスル——次ハ日程ノ第十三、島根縣ノ部分、委員會ノ修正案ガアリマス

確定議

〔修正ノ通りト呼フ者アリ〕

○議長(楠本正隆君) 然ラバ委員會ノ修正ノ通確定ヲ報ジマスル——次ハ日程ノ第十四、熊本縣ノ部分——鈴木重遠君

第十三 島根縣下郡廢置法律案(政府提出)

確定議

〔委員會ノ修正ニ異議ナシト呼フ者アリ〕

確定議

〔修正ノ通りト呼フ者アリ〕

確定議

第十四 熊本縣下郡廢置法律案(政府提出)

確定議

〔鈴木重遠君演壇ニ登ル〕

第一讀會ノ續(特別委員長報告)

○鈴木重遠君(五十一番) 熊本縣下郡廢置法律案デゴザイマスガ、此ノ特別審査委員會ノ結果ヲ御報告申上ゲマスルガ、此熊本縣ノモニ郡ヲ併セテ一郡ト致シマスル三件デゴザイマスルガ、是ハ原案ヲ贊成致シマスルノデ、追々郡制施行ニデモナリマシテハ、行政上ノ機關ノ都合、又ハ郡ノ自治力ノ上ニ就キマシテモ至當デアルト云フコトデゴザイマシテ、原案ノ通委員會デハ一致ヲ以テ可決致シマシテゴザイマス、其中此郡ノ名デゴザイマスルガ、此郡名ニ至リマシテ委員會デハ(聽エマセヌ大聲ニ願ヒタイト呼フ者アリ)菊池郡ト合志郡ト併セマシタノガ、菊志郡ト申スコトニ原案デハナカニテ居リマスノデゴザイマスガ、委員會デハ是ニ就イテ色々議論モゴザイマシタガ、菊池ノ肥後ニ於ケルハ著名ノ事デモゴザイマスルシ、往年菊池家ハ歷世王事ニ勤勞シタ事モゴザイマスルシ、南北朝ノ時ハ武光ガ諸君モ御承知ノ通ニ國事ニ盡シテ譯モゴザイマスカラ、是ハ菊池郡ト名ヲ冠ラス方ガ宜シカラウ、今度政府カラ提出ニ爲リマシタ各縣ノ郡ノ廢置案ノ中ニハ、二郡ヲ併セテ一ノ著名

ノ郡名ヲ冠ラセテアルコトモ澤山ニアリマスルノデ、修正案ノ通ニ換ヘルガ宣シイト云フ説ト、又ハ此原案ノ通ニ菊志郡ト申ス方ガ宣シイト云フ説モゴザイマシタガ、詰リ委員會デハ多數ヲ以チマシテ菊池郡ト修正スル方ニ可決致シマシテゴザイマス、委員會ノ結果ヲ一應御報告ヲ致シマス

〔賛成々々ノ聲起ル〕

○議長(楠本正隆君) 委員會ノ修正案ニ反對ガアリマスル、該案ハ讀會ヲ省略シマスル——紫藤寛治君

熊本縣下郡廢置法律案(政府提出)

確定議

○紫藤寛治君(四十七番) モウ是カラ簡單デゴザイマスカラ、一言述ベタウマス、本員ハ政府提出ノ原案ヲ贊成スル者デゴザイマス、委員長ノ報告ニハ反對ヲ唱ヘル者デアリマス、固ヨリ此原案ハ能ク民情ヲ酌ミ民情ヲ察シテ調ベラレタ原案デアルト考ヘマスカラ、此原案ヲ贊成シマスル、委員會ノ決議モ一應尤ニモ聞エマスケレドモ、如何ニセン斯ク偏頗ナル修正ニナリマスルト、會ニ一郡ト爲シテモ惡感情ヲ惹起シテ、是カラ郡ノ事業ト云フモノハ一切興ラナイヤウニナルコトハ、今日カラ見エテ居ル有様デゴザイマス、此郡ノ事業ガ起ラヌヤウニナルト、實ニ郡ノ衰頽ト云フモノハ忽チニ來ルコト、爲リマス、所謂清國ガ孔子ヲ崇シテ進歩ノ途ヲ計ラズシテ、大ニ國運ヲ衰ヘシメテ今日ノ現状ヲ現シテ居ルノモ、畢竟此小部分ニバカリ拘泥シテ、唯孔子バカリヲ尊信シテ實際國ノ進歩ヲ計ラヌヤウニ成行キマシテハ、誠ニ慨ハシキ次第ニアリマス、是ガ一郡ト爲ル以上ハ、是非一致協力ヲ以テ郡ヲ富シ、又第二ノ菊池氏ヲモ養成スルヤウニシテ、第二ノ明治ノ菊池公ヲ養成シテ、大ニ國家ニ盡サシメンコトヲ切ニ望ミマスモノデアリマスカラ、私ハ飽クマデ此原案ヲ贊成スルノデアリマス、又段々菊池ノ名稱ガ消ニルトカ何トカ云フ懸念モアルヤウデゴザイマスガ、菊池神社ト云フ萬歲不朽ノ萬世ニ輝ク所ノ神社ガアツテ見ルト、菊池氏ノ名稱ノ絶ニルト云フコトハナイモノデゴザイマスカラ、滿場ノ諸君モ、此民心ノ動搖セヌヤウニ御贊成アラシコトヲ偏ニ希望致シマスル

○戸田熊彦君(八十九番) 本員モ唯今紫藤君ヨリ原案贊成ノ説ヲ述ベラレテ、委員會ノ修正説ニハ反對ノ御演説ガアリマシタガ、八十九番モ矢張紫藤君ト同感デアリマシテ、聊カ簡単ニ一言致シタウゴザイマス、今紫藤君ガ述べマス通り、全體此歴史ト云フモノハ最モ貴重ベキモノデアルト、云フコトハ、本員等モ常ニ承知シテ居ル所デゴザイマス、然ルニ歴史ヲ貴ビツ、モ、歴史ヲ保存シナケレバナラスト云フコトニナゼ反對シマスカト申シマスルト、此歴史ト云フモノハ今紫藤君ガ述ベマシタ通、唯郡名ヲ變ヘタト云フテ涇滅シナイト考ヘル、其名稱ハ紫藤君カラ述ベマシタ通、菊池神社ト云フ官幣中社ガアツテ、萬古不易ノモノト存ジテ居リマス、此歴史ハ何處マテモ尊シテ、又保存スベキモノデアルガ、之ヲ變ヘタタメ涇滅ニスルト云フコト

デアルナラバ、本員等モ唯人民ノ輿望々タト云フテ、歴史ヲ湮滅スルト云
コトハシナイデアリマスガ、片方ニ湮滅シナイト云フモノガアレバ、願ハ
クハ地方人民ノ輿論ニ副ハシコトヲ希望致シマス、其人民ノ希望ト云フモノ
ハ何ニ依シテ徵スルカト云フテ見ルト、既ニ熊本縣ハ是マデ山本郡、山鹿郡、菊
池郡、合志郡ノ四郡ヲ合セテ「一ノ役所ヲ置イタノデ、昨年二十八年ニ至リテ、
既ニ郡制施行ノ準備トシテ、山本郡、山鹿郡、菊池郡、合志郡、既ニ其準備
ヲシツ、アルノデアル、準備ヲ致シタ際、直ニ諸新聞ノ報ズルニ山本郡、
山鹿郡ヲ合シテ鹿本郡、菊池郡、合志郡ヲ合シテ菊志トスルト云フコトハ
各新聞ニ記載シタ、又一例ヲ舉ゲマスレバ、今日既ニ討議ニ付セラレタ法
案ヲ、四月一日ヨリ施行スルト云フコトニ爲ウテ提出サレタ、即チ熊本各地
ニ其名稱ヲ顯シタノデアル、右ノ通顯シテアルニ拘ラズ、此名稱ニ依リテ一
ノ請願モ出ナイハ、即チ此人民ノ希望ハ即チ政府提出ノ原案ニアルト云フコ
トハ疑ヒナイ譯デアリマス、是ハ唯名稱ハ尊バヌ、歴史ハ尊バヌカト云ヘバ
決シテサウデナイ、最前モ申シマス通、名稱ヲ尊ビ、歴史ヲ尊ブコトハ論ヲ
俟タヌ譯デアルガ、右述ベル通、是ガタメニ歴史ヲ湮滅シナイ限りハ、土地
人民ノ輿望ニ副ハシトラ本員モ希望致シマスノデ、今ノ修正說ニハ反對致
シテ、原案ニ賛成致シマス

○瀧江公寧君(二百一十番) 唯今段々熊本縣ノ郡名ノ修正ニ就キマシテ、反
對ノ意見ヲ述ベマシタガ、本員モ聊カ地方ノ事情ヲ述ベテ置キタイ、二百一
十番モ矢張此度消滅ニナル合志郡アタリカラ選出サレタ議員デアル、固ヨリ
ガ、元ニ政府カラ提出シタ菊志郡ト云フ原案ガ既ニ公平ヲ闕イタ、各縣ノ郡
名ヲ比較スルト不公平ナ原案ノ書方ト考ヘマス、唯今段々御説ヲ聞クト、目
下菊池郡ト云フ名稱ヲ附シマスレバ兩郡ノ折合ガ宜クナイ、菊池郡ト偏頗ノ
名稱ヲ附スルトキニナレバ、今度共同事業杯ガ思ハシク運ビ兼ネルト云フ懸
念ガアルト云フコトデアリマスガ、是ハ本員等ハ餘り憂慮ニ過ギタコトデア
ラウト考ヘマス、要スルニ反對論者ノ心配サレル所ノモノハ、成ル程一小部
分カラ觀察ヲ下シテ、熊本三縣ノ配置名稱ニ比較致シマシテ權衡ヲ失フト云
フガ、一ノ理由ニナツテ居ルヤウデゴザイマスガ、又目下消滅スル合志郡、
飽田郡ノ人民ハ感情ヲ損ジテ居ル、目下行政上ノ障リ、或ハ兩郡民ノ共同一致
スル點ニ就イテ惡ルクナイカト云フ、目下ノ感情懸念ニ過ギヌコト、思ヒ
マス、是ハ私ハ決シテ今日ノ人民トシテ公平ナル道理ヲ以テ諭ス日ニ於テ
ハ、假令異議アルニセヨ、ソレニ服サヌコトハナイト信ズルガ、又是等ノコ
トヲ以テサウ仰山サウニ申出ルモノハアレマイト信ズルノデアリマス、ソレ
ハ何ゼカト云フト、先年此藩ヲ廢シ縣ヲ置カル、場合ニ、又其後兩縣ヲ合シ
テ一縣ニ爲ス事モアツテ、其縣ノ所在地、即チ我縣ニ取ルト白川、八代ノ兩
縣ヲ廢シテ熊本縣ヲ置イタガ、熊本縣ノ名稱ハ異議ハナクテ今日ニ及シテ居
ル、又菊池郡、合志郡ハ從來ノコトヲ申シマスト、菊池郡ハ郡治ニ於テ兩

郡ヲ所轄シテ居リマス、今日モ菊池郡ニ郡役所ガ置イテアル次第、其點カ
テ考ヘテモ菊池郡ノ名稱ヲ附シテモ決シテ折合ノ附カヌト云フコトハアルマ
イト思フ、又小ニシテハ町村制ヲ實施スル際、菊池郡ニシテ三箇村五箇村合
シテ一ノ名稱ヲ存シタコトモアル、成ル程消滅シタ當時ハ面白クナイ感情モ
池郡、合志郡ノ四郡ヲ合セテ「一ノ役所ヲ置イタノデ、昨年二十八年ニ至リテ、
既ニ郡制施行ノ準備トシテ、山本郡、山鹿郡、菊池郡、合志郡、既ニ其準備
ヲシツ、アルノデアル、準備ヲ致シタ際、直ニ諸新聞ノ報ズルニ山本郡、
山鹿郡ヲ合シテ鹿本郡、菊池郡、合志郡ヲ合シテ菊志トスルト云フコトハ
各新聞ニ記載シタ、又一例ヲ舉ゲマスレバ、今日既ニ討議ニ付セラレタ法
案ヲ、四月一日ヨリ施行スルト云フコトニ爲ウテ提出サレタ、即チ熊本各地
ニ其名稱ヲ顯シタノデアル、右ノ通顯シテアルニ拘ラズ、此名稱ニ依リテ一
ノ請願モ出ナイハ、即チ此人民ノ希望ハ即チ政府提出ノ原案ニアルト云フコ
トハ疑ヒナイ譯デアリマス、是ハ唯名稱ハ尊バヌ、歴史ハ尊バヌカト云ヘバ
決シテサウデナイ、最前モ申シマス通、名稱ヲ尊ビ、歴史ヲ尊ブコトハ論ヲ
俟タヌ譯デアルガ、右述ベル通、是ガタメニ歴史ヲ湮滅シナイ限りハ、土地
人民ノ輿望ニ副ハシトラ本員モ希望致シマスノデ、今ノ修正說ニハ反對致
シテ、原案ニ賛成致シマス

○瀧江公寧君(二百一十番) 唯今段々熊本縣ノ郡名ノ修正ニ就キマシテ、反
對ノ意見ヲ述ベマシタガ、本員モ聊カ地方ノ事情ヲ述ベテ置キタイ、二百一
十番モ矢張此度消滅ニナル合志郡アタリカラ選出サレタ議員デアル、固ヨリ
ガ、元ニ政府カラ提出シタ菊志郡ト云フ原案ガ既ニ公平ヲ闕イタ、各縣ノ郡
名ヲ比較スルト不公平ナ原案ノ書方ト考ヘマス、唯今段々御説ヲ聞クト、目
下菊池郡ト云フ名稱ヲ附シマスレバ兩郡ノ折合ガ宜クナイ、菊池郡ト偏頗ノ
名稱ヲ附スルトキニナレバ、今度共同事業杯ガ思ハシク運ビ兼ネルト云フ懸
念ガアルト云フコトデアリマスガ、是ハ本員等ハ餘り憂慮ニ過ギタコトデア
ラウト考ヘマス、要スルニ反對論者ノ心配サレル所ノモノハ、成ル程一小部
分カラ觀察ヲ下シテ、熊本三縣ノ配置名稱ニ比較致シマシテ權衡ヲ失フト云
フガ、一ノ理由ニナツテ居ルヤウデゴザイマスガ、又目下消滅スル合志郡、
飽田郡ノ人民ハ感情ヲ損ジテ居ル、目下行政上ノ障リ、或ハ兩郡民ノ共同一致
スル點ニ就イテ惡ルクナイカト云フ、目下ノ感情懸念ニ過ギヌコト、思ヒ
マス、是ハ私ハ決シテ今日ノ人民トシテ公平ナル道理ヲ以テ諭ス日ニ於テ
ハ、假令異議アルニセヨ、ソレニ服サヌコトハナイト信ズルガ、又是等ノコ
トヲ以テサウ仰山サウニ申出ルモノハアレマイト信ズルノデアリマス、ソレ
ハ何ゼカト云フト、先年此藩ヲ廢シ縣ヲ置カル、場合ニ、又其後兩縣ヲ合シ
テ一縣ニ爲ス事モアツテ、其縣ノ所在地、即チ我縣ニ取ルト白川、八代ノ兩
縣ヲ廢シテ熊本縣ヲ置イタガ、熊本縣ノ名稱ハ異議ハナクテ今日ニ及シテ居
ル、又菊池郡、合志郡ハ從來ノコトヲ申シマスト、菊池郡ハ郡治ニ於テ兩

○議長(楠木正隆君) 第三項ハ委員會ノ修正案モアリ、且ツ之ニ對スル反對
モアルヲ以テ決議ヲ採リマスル、委員會ノ修正案ニ同意ノ諸君ハ起立
者多數

○議長(楠木正隆君) 次ハ日程ノ第十五、鹿兒島縣下——箕浦勝人君
第十五 郡廢置法律案(政府提出)

(箕浦勝人君演壇ニ登ル)

○議長(楠木正隆君) 十五、十六ヲ併セテ報告ヲ請ヒマス
○箕浦勝人君(百四十二番) 鹿兒島縣下國界並郡界變更及郡廢置法律案、是
ハ總テ原案ニ決シマシタ、尤モ二箇條バカリ特ニ御報告ヲ致シテ置ク必要ガ
アル、此鹿兒島縣下ノ郡ノ置キ方ハ、概シテ皆目下ノ唯今ノ行政區畫ヲ以テ
新タナル自治團體ノ區別トスル調べ方デアル、其中唯一箇所バカリ元ト一郡
デアツタ所ヲ割イテ、其一郡ヲ廢シテ二ノ郡役所ヲ置クト云フ處ガ一箇所
アリマス、此別ケ方ニ就イテハ委員會ニ於テトント議論ガナカツタ、併ナ
ガラ其新タニ出來ル所ノ郡ノ名前ニ就イテ議論ガアリマシタ、其名前ハ例ヘ
バ二郡若クハ三郡アル所ノモノヲ、其中カラシテ一郡其元ト大ナル郡ノ名稱
ヲ取シテ、新ニ起ル所ノ郡ノ名稱トスル、斯ウ云フヤウニ定メル、サウスルト或
ハ一郡又ハ二郡ト云フモノガ、全ク名前ガ廢絶ニ屬シテシマフト云フコトニ
ナル、斯ウ云フコトニ爲シテ居ル、是ニ對シテ意見ガアリマシテ、抑、郡ト云フ
モノガ數百年來成立シテ今日マデ來シテ居ルモノヲ、一朝ニシテ之ヲ廢絶ニ歸
セシムルト云フコトハ宜クナイコトデアル、種々歴史上ニソレく關係モアリ
マスルモノデアルカラ、是非ソレハ存シテ置ク方ガ宜カラウト云フ說ガアリ
マシタ、併ナガラ委員會ノ多數ハ是ニ反對シテ此度ノ郡ハ行政上ノ區畫トハ

違^ツテ、一ノ自治團體ヲ造ルノデアルカラ、却テ歴史土ノ痕跡ハ殘ラナイ方

ガ、郡ノ自治團體ノ發達ノ上ニ却テ便利デハナイカト云フ正反對ノ議論抒モ

アリマシテ、遂ニ原案ノ通り決シマシタノデアリマス、ソレカラ今一箇條ハ

鹿兒島ト大島トノ間ニ島ガ十アル、小サナ島ガ十アル、此所屬ノコトニ就イ

テハ餘程困難ナ問題デアッテ、申スマデモナク此小サナ島ハ、町村制不^ヲ實

行スルト云フヤウナ度合マデマダ到^ヲテ居リマセヌ、又町村制ヲ實行シナケ

レバナラヌト云フ必要モナケレバ、又實行シ得ルダケノ程度ニモ至^ヲテ居ラ

ヌ、然ルニ此島ハ川邊郡ト云フ郡ニ屬シテ居リマスルモノデアルガ、此度郡

制ヲ施クニ就イテ此島ガ川邊郡ニ屬シテ居ルト、已ムヲ得ズ其島ニモ矢張町

村制マデモ施カネバナラヌト云フ譯デアルガ、ソレハ到底實際ニ行レナイコ

トデアル、ソレ故ニ郡制ヲ施カナイ所ノ大島郡ニ之ヲ附ケヤウト云フ原案デ

アル、勿論今日ノ行政上ノ管轄カラ申シテモ、今ノ十島ハ矢張大島ニ屬シテ

居ルノデアル、併ナガラ郡ハ何處デアルカト云フト、川邊郡ト云フ方ニ屬シ

トデアル、ソレ故ニ此度ノ郡制ヲ施クニ當^ヲテハ何レトカ此附屬ヲ變更スルコ

トガ必要デアル、然ル所此島ヲ引受ケルト云フコトハ、何レノ地方ニシテモ

餘り好マスコトデアルト云フヤウナ事情ノアル所デアル、其邊カラシテ或

ハ此島ヲ三ツノ部分ニ分^ヲテ、或一部分ヲ例ヘバ川邊郡ニ附ケル、或一部

分ヲ熊毛郡ニ附ケル、或ル一部分ヲ大島郡ニ附ケル、三ツ位之ヲ分ケテ見タ

ラドウダラウカト云フ説モアリ、又ハ凡ソ延長三百海里バカリアル、三百海

里バカリアル所ノモノヲ中途カラ半バ頃カラ中斷シテ、一方ハ大島、一方ハ

此方ノ地方ノ方ト云フヤウナ工合ニ附ケタラドウダラウト云フヤウナ説ガ

出マシタガ、孰モドウモ完全ナモノデナイ、茲ニ於テ委員會ハ一ノ希望ヲ起

シタノデアル、今日ニ於テハ先づ原案ノ通ニ致シテ、大島郡ニ此十島ヲ附ケ

ルト云フコトデ宜シカラウ、併ナガラ大島郡ハ追々郡制ヲ施クト云フヤウナ

度合ニマデモ進デ參ルノデアリマスカラ、左様ナ場合ニ至^ヲタナラバ、尙更

ノコト成ルベク速ニ十島ト云フモノノ一ノ獨立ナモノニシテ、例ヘバ伊豆七

島ノ東京府ニ於ケルガ如ク、獨立ノ一ノモノニシテ、鹿兒島縣廳ニ直轄スル

ヤウナコトニ、政府ハ速ニ調ヲサレルノガ然ルベキコトデアラウト云フノ

ガ、即チ委員會ノ希望デアル、此希望ヲ同時ニ本會ニ向^ヲテ表明致シテ置ク

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(楠本正隆君) 二讀會ヲ開クニ御異議ナシト認メマス

○議長(楠本正隆君) 鹿兒島縣下國界立郡界變更及郡廢置法律案(政府提出)
孝君
〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(楠本正隆君) 直チニ讀會ヲ省略シテ會議ニ付シマスル——長谷場純

○議長(楠本正隆君) 直チニ讀會ヲ開ク如何ノ決議ヲ採リマス

○議長(楠本正隆君) 直チニ讀會ヲ開クニ御異議ナシト認メマス

○議長(楠本正隆君) 直チニ讀會ヲ省略シテ會議ニ付シマスル——長谷場純

費用ノ負擔ト云フモノヲ輕クシテ、他ニ出サナケレバナラズ、已ムヲ得ナイモノニ向ッテハ惜マズシテ出サナケレバナラニ時勢デアルカラシテ、斯ノ如ク二十三四年ニ捨ヘタ所ニ少シ毛ノ生ヘタ議案ヲ、其儘茲ニ今日ノ場合ニ當シテ通過スルト云フコトハ、迪モ私ハ忍ビナイコトデアルノミナラズ、古來ノ歴史ヲ破ッテ、悉ク郡名ヲ廢シテ、他ノ一郡ニ合併シテシマウノハ何ノ利益ガアル、政府ニ於テモ一ノ利益ハナイノデアル、ナイノミナラズ、ソレガタメニ地方ニ紛擾ヲ釈シテ、苦情ガ起ルト云フ却テ害ガアルカモ知レナイ、ソレデ行ナイカト云ツタラ、行レル便法ト云フモノハ、今日法律ノ上ニ規定サヘスレバ、十分是マデノ通何郡外何郡役所トシテ、郡治ノ機關ト云フモノハ動クト云フコトハ明ナ事デゴザイマス、故ニ此案ヲ提出シマシタカラ、満場ノ諸君、御贊成ヲ希望致シマス

○議長(楠本正隆君) 修正案ヲ朗讀致シテ、決議ヲ採リマス

(佐脇書記官朗讀)
第一項ヨリ六項迄ヲ削除シ第七項鹿兒島縣薩摩國給黎郡ヲ西給黎郡(知覽村)東給黎郡喜入村ノ二郡ニ分ツト改メ第八項九項ヲ削除シ十一項ハ原案ノ通り

○議長(楠本正隆君) 少數、因テ長谷場純孝君ノ修正案ニ同意ノ諸君ハ起立

起立者 少數

○議長(楠本正隆君) 少數、因テ長谷場君ノ修正案ハ消滅致シマシタ、原案ニハ御異議ナキヲ以テ原案通確定ヲ報ジマス、次ハ十六、岡山縣兵庫縣境界變更及福岡縣大分縣境界變更法律案

確定議

第十六 岡山縣兵庫縣境界變更及福岡縣大分縣境界變更
更法律案(政府提出)
○箕浦勝人君(百四十一番) 先刻報告ヲ漏シマシタガ、是ハ原案ノ通決シマシタ、國ノ行政上ノ大體カラ見テモ、地方ノ事情又ハ關係町村カラ見テモ、原案ノ通ニ爲ルノガ然ルベシト云フノデ、原案ノ通ニ爲リマシタ
○議長(楠本正隆君) 該案ハ讀會ヲ省略シマス、——御異議ナキヲ以テ直チニ確定ヲ報ジマス、次ハ第十七、奈良縣下郡廢置法律案

第十七 奈良縣下郡廢置法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(特別委員長報告)
○議長(楠本正隆君) 委員長江原素六君、——第十九マデヲ併セテ報告ヲ請ヒマス

(江原素六君演壇ニ登ル)

○江原素六君(二百九十五番) 諸君、第十七、第十八、第十九、此三ツニ就イテ御報告致シマスガ、滋賀縣ハ原案ノ通デゴザイマシタ、ソレカラ奈良縣ノ奈良縣大和國添下郡及平群郡ヲ廢シ、其區域ヲ以テ西平城郡ヲ置クト

云フヲ修正シマシテ、生駒郡ヲ置クト、其次ノ項ノ奈良縣大和國廣瀬郡及葛下郡ヲ廢シ、其區域ヲ以テ葛城郡ヲ置クト云フノヲ、葛城ノ上ニ北ト云フ字ヲ加ヘテ、北葛城郡ト修正ニナリマシタ、ソレカラ第五項ノ奈良縣大和國高市郡ヲ削除シマシテ、奈良縣大和國葛上郡、忍海郡ヲ廢シ、其區域ヲ以テ南葛城郡ヲ置クト、原案ノ樞原郡ヲ置クト云フヲ修正シテ、南葛城トシタノデゴザイマスガ、奈良縣ノ地名ノ修正デゴザリマス、ソレカラ三重縣ニ於キマシテハ、總テ原案ノ通デアリマスガ、矢張郡名ニ就イテ修正ガゴザイマス、三重縣ノ第二項ノ三重縣伊賀國伊賀郡及名張郡ヲ廢シ、其區域ヲ以テ伊名郡ヲ置クノデゴザイマス、丁度伊賀郡ノ伊ノ字ト、名張郡ノ名ノ字ヲ取ツテ、伊名郡ト云フノガ原案ニゴザイマシタガ、少シ名ガ伊名デアルカラシテ、ソレノ書イテ伊名郡ト云フ風ニ爲ツタノデゴザイマス、ソレカラ第五項ノ三重縣伊勢國飯高郡及飯野郡ヲ廢シ其區域ヲ以テ以比郡ヲ置クト云フノハ可笑シイカラ、此邊ハ通例「飯南」ト申シテ居リマスカラ、之ヲ修正致シマシテ飯南郡ト云フ風ニ致シタノデゴザリマス、後トハ總テ原案ノ通デゴザリマス

○議長(楠本正隆君) 奈良縣下ニ關スル法律案、是レ亦讀會ヲ省略シテ直チニ確定ノ決議ヲ採リマス——委員會ノ修正案ニ就イテ決議ヲ採リマス

○議長(楠本正隆君) 奈良縣下郡界變更及郡廢置法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(特別委員長報告)
○議長(楠本正隆君) 御異議ナキヲ以テ、修正案通確定致シマシタ、次ハ滋賀縣下郡界變更及郡廢置法律案ニ移リマス——是レ亦讀會ヲ省略シマス

第十九 滋賀縣下郡界變更及郡廢置法律案(政府提出) 確定議
(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)
○議長(楠本正隆君) 御異議ナキヲ以テ、原案確定ヲ報ジマス、次ハ日程ノ第二十二進ミマス、日本勸業銀行法案第二讀會ヲ開キマス、該案ハ朗讀ヲ省略致シマス

第二十 日本勸業銀行法案(政府提出) 第二讀會
(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)
○議長(楠本正隆君) 御異議ナキヲ以テ、原案確定ヲ報ジマス、次ハ日程ノ第二十二進ミマス、日本勸業銀行法案第二讀會ヲ開キマス、該案ハ朗讀ヲ省略致シマス

○河島醇君(百七十九番) 本員ハ第三條ノ次ニ一項ヲ加ヘタイト云フ修正ノ意見デアリマス

○議長(楠本正隆君) 河島醇君

(河島醇君演壇ニ登ル)

○河島醇君(百七十九番) 諸君、平生我帝國臣民ノ權利ト義務トヲ重ンゼラレバ、即チ日本臣民ノ權利ヲ保護セントスル所ノ點デアル、御承知ノ如ク帝國臣民ト海外各國ノ臣民トハ、同等ノ法律ノ下ニ立ツコトガ出來ナイト云フノガ現行條約ノ規定デアル、而シテ彼ノ新條約ナルモノガ追々運ンデ來テ、英國其他ノ條約ヲ見テ見テモ、未だ全然我帝國臣民ト同様ナ權利ヲ此帝國內ニ有スルコトハ出來ナイト云フノデアル、現行ノ條約ニ照シテ見テモ、又改正セラレタ所ノ條約ニ對シテ見テモ、其權利ノ均シカラヌト云フコトハ明ナ事デゴザリマス、然ルニ此特權ヲ與ヘ、特別ノ保護アル銀行ニ對シテ外国人ニ對スル所ノ制限ガナイ、即チ日本銀行條例、即チ此條例ハ法令デアル、此日本銀行ノ法令——條例ノ第五條ニ依テ見マスル「日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トナシ日本人ノ外賣買讓與スルコトヲ許サス」日本人ノ外賣買讓與スルコトヲ許サズ、ソレカラ第六條ニ「日本銀行ノ株主タラントスル者ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ」ト云フ規定ガ此法律ニ明記シテアルノデアル、然ルニ此度提出ニ爲ツタ所ノ勸業銀行法案ニ對シテハ、右ノ如キ規定ガナイノデアル、シテ見レバ、若シ外國人ガ一度株主ト爲リ、株券ヲ所有シタル場合ニアレバ、固ヨリ株主會議ニ於テ十分ナル所ノ權利ヲ有シ、併テ勸業銀行ノ重役タル資格ヲ有スルト云フコトハ明ナル事デアル、本員ハ此點ニ向クテ大懸念ヲ致シタガタメニ、特別委員會ニ於テ政府委員ニ質問ヲ致シタ所ガ、政府委員ハ則チ此株券ハ動産デアルカラ所有セシムル積デアル、然ラバ株主總會ニ於テ十分ノ權利ヲ持チ、或ル場合ニ於テ此銀行ノ重役タルノ資格ヲ有スル者デアルヤ否ヤト云フコトヲ質問シタ所ガ、政府委員ハ、是ニ答ヘテ曰ク、役人ハ大藏大臣ガ任命スルガ故ニ、外國人ヲ爲スガ如キ不都合ハ致シマスマイト云フ、怪シイ所ノ答辯デアツタノデアル、大藏大臣ガ任命スルカラシテ、外國人ヲ命ズルヤウナ不都合ハ致シマスマイ、サウ云フコトヲ言フノデアル、法律デ許シタモノヲ、大藏大臣ガ不都合ハ致シマスマイト云フノデアル、不都合ト見ルナラバ何シニ日本銀行同様ニ法律ニ規定ヲシナインデアルカ、即チ政府委員ノ答辯ハ何レノ點ニ在ルカ、外國人ニ所有セセルノガ不都合ト見タナラバ、何ニシニ法律ニ其明文ヲ掲ゲザルカ、是レ疑問ノ點デアル、審ニ疑問ノ點ナルノミナラズ、若シ斯ノ如キ權利ヲ外人ニ與ヘタナラバ、此銀行ハ他邦人ノ手ニ依ツテ幾何ノ損害ヲ蒙ルカモ知レヌノデアル、故ニ吾ト此帝國ニ向クテ權利義務ヲ同シウスルコトノ出來能ハザル以上ハ、條約上

律案ノ第三條ノ次ニ新條ヲ設ケントスル所ノ修正案ハ何デアルカト申シテ見レバ、即チ日本臣民ノ權利ヲ保護セントスル所ノ點デアル、御承知ノ如ク帝國臣民ト海外各國ノ臣民トハ、同等ノ法律ノ下ニ立ツコトガ出來ナイト云フノガ現行條約ノ規定デアル、而シテ彼ノ新條約ナルモノガ追々運ンデ來テ、英國其他ノ條約ヲ見テ見テモ、未だ全然我帝國臣民ト同様ナ權利ヲ此帝國內ニ有スルコトハ出來ナイト云フノデアル、現行ノ條約ニ照シテ見テモ、又改正セラレタ所ノ條約ニ對シテ見テモ、其權利ノ均シカラヌト云フコトハ明ナ事デゴザリマス、然ルニ此特權ヲ與ヘ、特別ノ保護アル銀行ニ對シテ外国人ニ對スル所ノ制限ガナイ、即チ日本銀行條例、即チ此條例ハ法令デアル、此日本銀行ノ法令——條例ノ第五條ニ依テ見マスル「日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トナシ日本人ノ外賣買讓與スルコトヲ許サス」日本人ノ外賣買讓與スルコトヲ許サズ、ソレカラ第六條ニ「日本銀行ノ株主タラントスル者ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ」ト云フ規定ガ此法律ニ明記シテアルノデアル、然ルニ此度提出ニ爲ツタ所ノ勸業銀行法案ニ對シテハ、右ノ如キ規定ガナイノデアル、シテ見レバ、若シ外國人ガ一度株主ト爲リ、株券ヲ所有シタル場合ニアレバ、固ヨリ株主會議ニ於テ十分ナル所ノ權利ヲ有シ、併テ勸業銀行ノ重役タル資格ヲ有スルト云フコトハ明ナル事デアル、本員ハ此點ニ向クテ大懸念ヲ致シタガタメニ、特別委員會ニ於テ政府委員ニ質問ヲ致シタ所ガ、政府委員ハ則チ此株券ハ動産デアルカラ所有セシムル積デアル、然ラバ株主總會ニ於テ十分ノ權利ヲ持チ、或ル場合ニ於テ此銀行ノ重役タルノ資格ヲ有スル者デアルヤ否ヤト云フコトヲ質問シタ所ガ、政府委員ハ、是ニ答ヘテ曰ク、役人ハ大藏大臣ガ任命スルガ故ニ、外國人ヲ爲スガ如キ不都合ハ致シマスマイト云フ、怪シイ所ノ答辯デアツタノデアル、大藏大臣ガ任命スルカラシテ、外國人ヲ命ズルヤウナ不都合ハ致シマスマイ、サウ云フコトヲ言フノデアル、法律デ許シタモノヲ、大藏大臣ガ不都合ハ致シマスマイト云フノデアル、不都合ト見ルナラバ何シニ日本銀行同様ニ法律ニ規定ヲシナインデアルカ、即チ政府委員ノ答辯ハ何レノ點ニ在ルカ、外國人ニ所有セセルノガ不都合ト見タナラバ、何ニシニ法律ニ其明文ヲ掲ゲザルカ、是レ疑問ノ點デアル、審ニ疑問ノ點ナルノミナラズ、若シ斯ノ如キ權利ヲ外人ニ與ヘタナラバ、此銀行ハ他邦人ノ手ニ依ツテ幾何ノ損害ヲ蒙ルカモ知レヌノデアル、故ニ吾ト此帝國ニ向クテ權利義務ヲ同シウスルコトノ出來能ハザル以上ハ、條約上

○宮崎榮治君(一百八十二番) 私モ修正ノ意見ヲ述ベマス、私ハ第一條ノ農業」ノ文字ノ下ニ「漁業」ノ文字ヲ加ヘルノ修正說ヲ提出致シマス、一體漁業ナルモノハ、農業ノ一部トシテ此中ニ包含致シテアルカト思ヒマスケレドモ、他ノ條項ヲ見マスレバ、之ヲ認ムルニ足ルダケノ條項ガゴザリマセヌ、然ルニ本邦ノ實況ヲ察シマスレバ、我國ハ四面海ニ瀕シテ居リマスカラシテ、漁業ニ由クテ職ヲナシテ居リマス者ハ決シテ少クハゴザリマセヌ、併ナガラ漁業ノ發達ハ最モ遲緩ニシテ又幼稚ヲ免レマセヌ、併シ我國ノ水產額ト云フモノハ我國產ノ大部分ヲ占メテ居リマスルカラシテ、就中漁業ノ改良發達ヲ圖ルノハ今日ノ急務デアルト思ヒマスル、若シ此法案中ニ漁業ノ改良發達ヲ圖ルコトガナカツタナラバ、他ニ又漁業ノ改良發達ヲ圖ルノ法律案が外ニナインデゴザイマスル、故ニ本員等ハ此法案第一條中ノ農業ノ下ニ漁業ノ文字ヲ加ヘマシテ、漁業ノ改良發達ヲ圖シテ往カウト致シマスルノデゴザイマス、序ニ申上ゲテ置キタイノハ、此處ニ漁業ノ二字ヲ加ヘマスコトニ至リマスレバ、他ノ條項ニモ此漁業ノ二字ヲ加ヘ、又抵當ト云フ中ニモ船舶ト云フ所ノ文字ヲ加ヘタイノデゴザイマスル、尤モ船舶ヲ抵當ニスル場合ニ至リマシテハ保険附ノモノニ限ルト云フコトニ致シタイノデアリマス、尙ホ本案ト關係ヲ持シテ居リマスル所ノ農工銀行ニ至リマシテモ、漁業ト云フコトヲ加ヘマシテ、此全キヲ得タイト云フ精神デアリマスカラシテ、ドウカ滿場ノ諸君ノ御贊成ヲ請ヒマス

○工藤行幹君(百十番) 河島君ノ修正說ニ贊成ヲ表シマス

○中野武營君(二百三十四番) 本員モ河島君ノ修正ノ御趣意ヲ贊成スルモノデアルガ、如何ニモ法文トシテハ、文章ガ河島君ガ唯今御提出ニ爲ツタノハ少シ文章ガ如何デアラウト考ヘマスル故ニ、河島君ニ御照會致シマスルガ、相成ルベクハ文章ノ事デゴザイマスルカラ、御相談デ極メタイノデゴザイマス、即チ其文章ハ「日本勸業銀行ノ株主ハ帝國臣民ニ限ル」

○河島醇君(百七十九番) ソレハ本員ハソレデ宜シイ、精神サヘ同ジデアルバ……

○中野武營君(二百三十四番) 河島君ガ御同意下サレバ、私ハ至極満足致シ

○河島醇君(百七十九番) 本員ニ於テハ中野君ノ御照會ニ異議ハゴザイマセ

○議長(楠本正隆君) 宮崎榮治君ノ「漁業」ノ二字ヲ第一條ニ挿入スルト云
フ、是ハ定數ノ賛成ガアリマスカ

〔賛成タクト呼フ者アリ〕

(政府委員大藏次官法學博士男爵田尻稻次郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 唯今河島君カラ今ノ株主ノ制限ノ御説が出
マスシ、ソレカラ宮崎君カラ今ノ漁業ノ御話モ出マシタガ、此勸業銀行ノ動
産、勸業銀行ノ株式ト申シマスルモ、矢張是ハ動産デアリマスカラ、動産上
ノ權利ト云フモハ内外人ヲ區別スルト云フコトハ出來マセヌデアリマスル
カラ、是ハ法律上ドウシテモ制限ヲ付ケルコトハ出來マセヌデゴザイマス、
ソレカラ、唯今ノ漁業ノ事デアリマスルガ、是ハ漁業發達ト云フコトハ誠ニ
我國ハ極度肝要ナ事デアリマスルガ、併ナガラドウモ此勸業銀行ノ立テ
口ノ性質ト致シマシテ、漁業ノ這入リマスノハ如何ニモ穩デナイノデゴザイ
マス、ソレデ一體ノ仕組ガ此動産ヲ抵當ニシマシテ、サウシテ此年賦償還ノ長
期間ノ償還ト云フコトニナツテ居リマスルカラ、漁業ハ御承知ノ通ニ成ル程船
抓ヲ築キマス時ニハ少シ長期間デ貸サナクンバナリマセヌガ、併シ魚ヲ取
リマシテサウシテ之ヲ販賣スルトカ、製造スルトカト申シマスルノハ、ナンデ
アリマスルカラ——此漁業ノ大體ノ性質デアリマスルカラ、ソレニハ此農業
トカ工業トカト云フヤウナモノ、性質ト、大層ドウモ違ツテアリマスルカラ
ラ、宮崎君ノ漁業ノ事ニ就イテハ御心配ニナルト云フ點ニ就イテハ吾ミモ至
極御同感デアリマスルガ、併ナガラ如何デアリマセウカ、此銀行ノ——御相
談デハアリマスルガ、此銀行ニソレマデ入レマスノハ如何ニモ物ノ本體ニ合
ハヌヤウデ、所謂木ニ竹ヲ接イダト云フヤウナ譯ニナリマシテ、ドウモ此全
體ニ面白クナイヤウニ思ヒマスルカラ、此處デハ先づ御引キ下サイマシテ、
ソレハ北海道トカ何トカ云フヤウナ最モ漁業ノ處、又他ノ處デハ更ニサウ云
フヤウナ便宜ヲバ勤メルト云フヤウナコトニ致スト云フコトヲバ、他ノ銀行
デヤクタ方ガ御目的モ達シマスルシ、あちらノナンノ方モ——銀行ノ性質モ
全クナルヤウデアリマスルカラ、ナルナラバサウ願ヒタイデアリマスルガ、
ドウゾ其邊デ御承知ヲ願ヒタイ

○河島醇君(百七十九番) 質問ガアリマス、今田尻政府委員ハ本員ノ修正説
ニ向ツテ駿擊ヲ加ヘラレマシタ——駿擊デアツカ、辯解デアツカ知ラヌ
ケレドモ、何セ日本勸業銀行ノ株券ハ、是ハ不動産デナリ、即チ動産デア
ルガ故ニ、内外人ノ所有ヲ拒絶スルコトハ出來ナイ、ソレデ此條項ヲ設ケヌ
ノデアルト言ハレタ——確ニ言ハレタ、然ラバ日本銀行ノ條例即チ日本銀
行ノ法律ニハ確ニ制限ガアルト云フコトハ御承知デアラウト考ヘル、一方ニ
御制限ヲ斯ク現存シテ置イテ、ソレヨリモ却テ貴重ナ所ノ特權ヲ與ヘタ、即
チ日本帝國ニ於ケル國家經濟唯一ノ機關タル所ノ勸業銀行ニ向ツテ制限ヲ置
カナイ、併シ日本銀行ニ向ツテハ現行ノ制限ヲ其儘ニ存スルノ必要アルト云
フ點ト、勸業銀行ニ向ツテ制限ヲ置クノ必要ナイト云フ點ハ、殆ド其權衡ガ合

ハヌヤウデアル、是ニ對スル幾許ノ理由ガアルカ、即チ日本銀行ノ條例ニハ
左様ナ制限ヲ置イテ、勸業銀行ニ制限ヲ置カナイト云フコトハ何故ニアルカ、
詳ニ説明セラレンコトヲ希望致シマス

(政府委員大藏次官法學博士男爵田尻稻次郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 河島君ニ一寸御答致シマスルガ、御承知ノ
通ニ此日本銀行ト云フモノハ、明治十五年ニ出來マシタデアリマスルカラ、既
ニ今日出來テ居ルモノデ、サウ云フコトガアルノモ少モ差支ナイ時代ニ、是ハ
出來タノデゴザリマス、併ナガラ今日ハ御承知ノ通ニ時勢モ段々進ンデ違ツテ
ニマシテ、最モ今日ヨリ起ル所ノモノニハ其區別ガ固クナリマシタカラシテ、
トウゾソレ邊ニ河島君モ種々是邊ノ關係ハ御承知ノ事デアリマスルカラ、サ
ウ御承知ヲ願ヒタイ

○河島醇君(百七十九番) 現行法律ヲ改正爲サル積カ、之ヲ存シテ不都合ナ
イナラバ、ナゼ新ニ條例ヲ設ケテハ不都合デアルカ
○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 事ノ前後ト云フコトガアリマスルカラ、元
カラアツタモノハ事ノ關係上差支ナニ、是カラ新ニ起スノモ事ノ關係上差支
ナイト、斯ウ云フノデアリマス

○草刈親明君(二百三十二番) 私ハ河島君ノ御議論ニ賛成致シマス、一體外
國人ニ土地ヲ所有セシメナイト云フコトハ、我國ノ公論デゴザイマシテ、何人
ト雖モ此事ニ就キマシテハ異議ハナカラウト思フノデアル、然ルニ若モ勸業
銀行ノ此法律ニシテ、外國人ヲ其株主ト爲スニ至リマシテハ、間接ニ外國人ヲ
シテ土地所有權ヲ得セシムルヤウナ有様ニナツテ、即チ外國人が取りモ直サズ
債權者デゴザイマス、然ルニ外國人が債權者ト爲ツテ、而シテ外國人が勸業
銀行法案ノ第十四條ニ依ツテ土地ノ抵當ヲ取ルコトが出來ル、土地ヲ抵當ニ
取ツテサウシテ金ヲ貸スコトガ出來ルコトニ相成ツタナラバ、取りモ直サズ
外國人ガ日本臣民ノ土地ヲ占有スルト云フコトニ相成ルノデアル、デ、日本
臣民ノ土地ヲ外國人ニ占有セシメテモ差支ナイト云フ御議論ナラバ免ニ角
ニ、日本臣民ノ土地ハドウシテモ外國人ニ侵サシメナイト云フナラバ、河島君
ノ説ハ必要デアラウト思ヒマス、此勸業銀行ト云フモノハ他ノ銀行條例等ト
大ニ其趣ヲ異ニシマシテ、目的ノ大ナル所ハ即チ農家ニ金ヲ貸スト云フコト
デ、農家ニ金ヲ貸スト云フコトニ就イテハ、農民ノ土地ヲ抵當ニ取ルコトニ
ナツテ、即チ土地ヲ以テ大目的ト爲ス所ノモノデアル、大目的ト爲シテ居ル
所ノ債權者ノ一人トシテ外國人ヲ加フルト云フコトハ、甚ダ恠証ニ堪ヘナイ
コト、私ハ思フノデアル、況ヤ其株券ノ方カラ之ヲ考ヘテ見マシテモ、第三
十五條カニ株券ヲ或ハ無記名ニスルト云フコトモアル、債權者及株主ノ請求
スル所ニ依ツテ無記名トスルコトガアリマスレバ、或ハ動産タルトキモアリ
マセウ、或ル場合ニ於テハ權利タルコトモアルト云フコトガアル、故ニ斯ノ
如キ法案ニ免ニモ角ニモ日本銀行條例等ニ明ニ存シテ、サウシテ外國人ヲ株
主ト爲スコトニ就イテハ事體我國ノ根底、我國ノ築カレテ居ル所ニ大關係ヲ

有スルモノト信ジマスルガ故ニ、此點ハ滿場ニ於カセラレマシテモ、河島君ノ説ニ賛成アランコトヲ切ニ希望致シマス。

○小畠岩次郎君（二百三十六番）私ハ宮崎君ガ是ニ漁業ト云フコトヲ加ヘルニ同意シマスモノデゴザイマスルガ、聊カ宮崎君ノ意見ノ漏レタル所ヲ述べテ置キタウゴザイマス、抑、勸業銀行ト云フモノヲ立テル上ニ於キマシテ、漁業ト云フモノヲ是ニ加ヘテ置カヌト云フノハ、勸業銀行ノ一ノ缺點デアルト私ハ思ヒマスル、ソレハ審ニ農ダケナラバ宜シウゴザリマスルガ、是ニ附帶シタ農工銀行ト云フモノヲ設ケテ、農業ト工業ノ發達ヲ助ケルト云フノデゴザイマスルガ、其工業ト云フモノハ種々様々ニ業體デアリマシテ、此工業ト云フモノヲ漁業ニ比較シマシタナラバ、遙ニ退クモノデゴザイマス、殊ニ工業ノ如キハ何カ其原料ト云フモノガアッテ、利益ノ少イモノデゴザイマス、大抵豫メ利益ト云フモノハ測ルコトノ出來得ベキモノ、ヤウニ思ヒマスルガ、漁業ノ如キハ諸君モ御承知ノ通、我國ノ周圍ハ皆海デアリマシテ、是カラ採ツテ來ル所ノ產物ト云フモノハ實ニ無盡藏デゴザイマス、愈々其方法宜シキヲ得マシタナラバ、海カラ利益ヲ得ルノハ誠ニ大キナコトデアル、業ヲ進メルノハ實ニ此事ハ今日ノ急務ト言ハナケレバナラヌ、資本ヲ澤山入レズシテ利益ヲ得ルト云フニハ、業ヲ進メルニソレ程宜シイコトハゴザイマセヌ、而シテ尙ホ水產ノ業ハ諸君ノ御承知ノ通、其業體タルヤ甚ダ危險ニシテ、實ニ能ク我生命ヲ思フタナラバ容易ニ出來ナイ業デゴザイマス、又其採ル所ノ產ト云フモノハ、諸君ガ日々モ缺クコトノ出來ナイ所ノ品物ヲ採ツテ來テ宛テガウノデアル、此業ヲ盛シヤウト云フケレドモ、其資本ニ困ト云フノハ、到ル處ノ漁業者ハ皆同シ事デアル、此漁業者ニ資本ヲ宛テガウテ此業ヲ進メタナラバ、漁業ノ上ニ於テ其利益ヲ得ルコトハ、實ニ私ハ量リノナイコト、思ヒマス、唯漁業者ト云フテ資産ガナイ、或ハ抵當物ガナイカラ金ヲ貸スノハ不都合デアルト云フ廉ガアルカハ知リマセヌケレドモ、漁業ト雖モ或ハ其方法ニ依シテ他ニ資產ヲ有スル者ガ之ヲ助ケルコトモゴザイマセウシ、或ハ又漁業者其者ノ中ニ土地ヲ所有シ、或ハ家屋ヲ所有シテ不動產ヲ所有シテ居ル者ガ、土地、家屋、船舶ヲ抵當ニ入レルコトガ出來ヌ、即チ銀行ガ預ルト云フコトガ出來ヌト云フテハ、農業ヲ獎勵シ工業ヲ獎勵スルト云フ上カラ言ツテモ、甚ダ缺點ト言ハネバナラヌ、故ニ漁業者ノ持ツテ居ル所ノ土地ト云フテ、左程變ツタコトハナイ、土地ヲ抵當ニシテ或ハ大ナル網ヲ搭ヘルトカ、船ヲ拵ヘテ遠洋漁業ヲ圖ルトカ云フコトハ、日本國ニ澤山アル、其事ヲヤラウト云フテモヤレナイト云フコトハ、今日ノ實際ノ上ニ於テ調査シテ明カナコトデゴザイマス、故ニ漁業者ニ資本ヲ宛テガウト云フコトハ、私共ハ農工銀行ヲ置カウト云フニ先達テ常ニ憂ヘテ居ルコトデアル、然ルニ農工銀行ヲ今日茲ニ置イテ其漁業ヲ此上ニ加ヘヌト云フノハ、私ハ勸業ト云フ上カラ言ヒマシテモ、缺點ト思ヒマス、此處デ漁業ヲ加ヘタ所デ、サマデ不都合ハゴザイマセヌ、船舶デモ堅固ナ船舶モゴザイマス、或ハ漁業者ノ

○政府委員（添田壽一君）重野君ニ御答致シマスルガ、此農工銀行法ノ原案ノ第五條ニ於キマシテ、株主ト爲ル者ノ制限ニ原籍及住所ヲ有スルト云フ資格ヲ置キマシタノハ、成ルベク此農工銀行ハ所謂地方的機關デナケレバナラヌ、地方ニ密著ノ關係ヲ持タナケレバナラヌト云フ側カラ見テ居ルノデゴザイマシテ、決シテ所謂排外ノ分子ハ含シテ居ラナイノデゴザイマス、故ニ此條ニ依リマスレバ、原籍ト云フコトハ外國人ハ到底有サナイノデゴザイマスカラ、已ムヲ得ザル結果トシテハ、外國人ガ株主ト爲ルコトガ出來マセヌヤウニナルカモ知レマセヌケレドモ、是ハ此精神ハ、其農工銀行ヲ成ルベク地方的機關タラシムルト云フカラ見テ居ルノデゴザイマスカラ、外國人バカリデナシ、内國人ト雖モ其地方ニ原籍及住所ヲ有シナイモノハ株主ト爲ルコ

トハ出來ナイノデゴザイマス、ソレカラ既ニ成立ツテ居ル法律ハ、是ハ法律
ト條約ノ衝突ノ問題デ極ルベキコトデゴザイマスルガ故ニ、ソレハ見込ニ依
リテ色々と説ガ達フカモ知レマセヌケレドモ、既ニ其成立ツテ居ル法律ヲ認メ
ラレタモノトモ解シ得ラル、ト思ハレマスカラ、既ニ成立ツテ居ル日本銀行
條例ニマテ話ヲ及サナイデモ宜カラウト存ズルノデアリマス、又序ナガラ申
上ゲテ置キマスルガ、先刻草刈君ノ御説ニ依リマスレバ、少シク株主ト法人ト
ガ混淆シテ居ルヤウニ存ジマスルガ、株主ト爲ツテモ、決シテ其法人、即チ
日本勸業銀行ガ抵當トシテ取ツテ居ル土地ノ抵當權ヲ有スルト云フコトハ直
接ニハゴザイマセス、日本勸業銀行ハ抵當ヲ取リマシタケレドモ、即チ株主
ガ抵當ヲ取ツテ居ルト云フコトニハナラナイノデアリマシテ、若シ銀行ガ彌
解散ヲスルト云フ時ニナレバ、其抵當ニ取り、或ハ流込シダ土地ト云フモノ
ハ賣クテシマハナケレバナラヌノデ、株主ノ手ニ這入ルノハ、即チ財產ノ分
配ニ依ル所ノ金錢ニ止ルモノデゴザリマス、序デナガラモウツ御参考マデ
ニ申上げテ置キマスルガ、漁業ノ事ハ成ル程先刻田尻次官が仰セラレマシタ
通、又諸君カラモ御説ノアリマシタ通、必要デゴザイマスケレドモ、御承知ノ
通ニ漁業ト云フモノハ、其性質ニ於テ定期若クハ長イ期限ノ金ヲ要スルモノ
デゴザイマセス、是ハ年賦ノ償還ヲ必要トスル種類ノモノデゴザイマセズシ
テ、隨分利益ガゴザイマスレバ、一時ニ資本ノ數百倍ヲ得ルト云フコトモア
ルノハ、御承知ノ通デゴザイマス、故ニ是ハ此低利長期ノ年賦償還ヲ要スル
農業者、工業者ト同一ニ見ル譯ニ參リマセス、又漁業ハ隨分中ニハ確實ナモ
ノモゴザイマスケレドモ、亦一朝非常ナル、是ハ損害ニ遇フコトモアルノデ
ゴザイマスル、故ニ銀行ノ安全ノタメニ漁業ハ他ハ方法ヲ廻ラシテ、此以外
ニ置カレンコトヲ希望スルノデゴザイマス

○重野謙次郎君(二百三十九番) 尚ホ政府委員ニ御尋致シタノデアリマス
ガ、私ノ問フタ事ニ就イテハ未だ要領ヲ得ナイノデアリマスカラ、モウ一應
御尋ヲ致シタノデ、ソレデ私ノ御尋致シタノハ、第一ニ此勸業銀行ノ方ノ
株券ヲ外國人ニ所有セシムルト云フコトハ、條約ニ關係アルト推測シテアル
ガ、サウデアルヤ否ヤト云フコトヲ第一ニ御尋ヲシテ、事實ヲ假リニ判定シ
タノデ、サウデアルト云フヤウニ承知シテ宜キヤ否ヤト云フコトヲ確メタ
イ、是ガ即チ質問ノ根底デアリマスカラ、果シテサウ云フコトデアルト云フ
此農業銀行ノ方ノ第四條ハ、農業銀行ノ營業區域内ニ於テ原籍及住所ヲ有ス
ル者ニアラザレバ其株主タルコトヲ得ズト云フ明文ニ書イテアルカラシテ、
コトヲ極シタト見テ私ハ御尋ヲシタイ、ソレデ今添田政府委員ノ御答ニハ、
大藏大臣ノ御説デハ、日本銀行ハ明治十五年ノ創立デアシテ、其際ハ斯様
の制度ニセシケレバナラヌ必要ガナカッタト云フ御説デゴザイマシタ、是
カ、語ヲ換レバスケンケレバナゼ將來ノ對外政策ニ不都合ガアリマスカ、
ニ依クテ見マスレバ、今日創立スル銀行デアシタラ、地方的ノ銀行デモ國家
的ノ銀行デモ、同ジ新法律ヲ以テスル以上ハ、一方ニ外人ヲ株主トセネバナ
ラヌ、一方ニハ之ヲセヌデモ宜イト云フコトハ理論上アルベカラザルコト、
思ヒマス(星亨子君「ソシナ心配ハイラヌ」ト呼フ)あなたハ政府委員デナイカ
ラアナタニハ聞キマセヌ——ソレカラ次ニ私ノ事ニ就イテ御尋致シマス、添
田君ノ先刻ノ御説デハ、株主ト法人トハ違フト云ハレマシタガ、成ル程ソレ

ハ達フデゴザリマセウガ、抑々法八ハ即チ株主デ、株主ハ即チ法人デアル、本勸業銀行ガ土地ヲ抵當ニ取テモ、資金ノ償還ヲ致サヌトキハ公賣ニ付ス云々、然ルニ今日現ニ政府ガ帝國議會ニ提出致シテ居ル修正民法ニナントナッテ居リマスカ、修正民法ニハ抵當ニシタ不動產ニ對シ債務者ガ其金ヲ返サヌ時分ニハ、特約ニ依ツテ其不動產ト云フモノハ債權者ノ手ニ權利ガ移ルト云フ明文ガアリマス、期限ガ來タ金ヲ返サヌト云フトキハ、土地ヲ以テ御渡シスルト云フ、其土地ハ直チニ債權者ニ權利ガ移ツテシマフト云フコトハ、修正民法ニ規定シテアリマス、委員會ニ於キマシテハ種々ナル議論ガアリマシタガ、免ニ角政府ガ出シテ居ル法案デアツテ、其抵當ト云フモノハ斯ノ如キ特約ノアル場合ハ、其抵當ハ流込ニ爲ツテ一時之ヲ他人ニ賣渡スマデノ間ハ邦人ト外國人ト共有ト云フコトニナラヌケレバナラヌ、即チ日本臣民ガ外國人ノタメニ土地ヲ侵害サレルト云フ眞レハナイカ、即チ今日ノ場合デ云ヘバ、外國人ハ其土地ヲ抵當ニ取ツテ金ヲ貸スノ權利ヲ有シナイ、今日ノ場合ニ於テハ外國人が土地ヲ取ツテ日本國民ニ金ヲ貸シテ置ク、其土地ノ抵當ハ第三者ニ對シテモ何處ニ對シテモ無效ニナルト云フコトハ、星亨君ノ御説ガアツタ、サウ云フコトニナリマスレバ、河島君ノ如ク此法案ニ第四條ヲ加ヘヌケレバ甚ダ不都合ト信ジマス、其點ニ關スル御考ハ如何デゴザリマセウカル御答辯ヲ明カニシ、第二ハ私ガ先刻申シマシタ所ノ事ニ就イテ、反駁サレタ意味ヲ明ニサレンコトヲ希望致シマス

(政府委員大藏書記官添田壽一君演壇ニ登ル)

○政府委員(添田壽一君) 更ニ御尋デゴザリマシタカラ已ムヲ得ズ簡短ニ申上グテ置キマス、吳レヒモ申上グマスル通、此農工銀行ト云フモノハ、地方的機關デナケレバナラヌト云フ結果カラシテ、株主ハ其地方ニ原籍及住所ヲ有セナケレバナラヌト云フコトダケハ御承知ヲ願ヒマス(草刈親明君「シリマシタ」ト呼フ)然ラバデス、其結果トシテ日本人モ省カレル、外國人モ省カレルノデアリマスル故ニ、是ハ少モ條約ノ上ニ於テハ差支ナイト見込ムノデアリマス、又第二ノ御尋デアリマスガ、成ル程御説ノ通ニ新民法デハ直チニ其所有權ガ必シモ移ルト云フ場合ガアラウカ(草刈親明君「必シモデス」トルト云フコトハアリマセヌ、即チ財團デ分ツモノデゴザイマスカラ、サウ御承知ヲ願ヒマス

(質問ヤ理窟デハ分ラヌ」ト呼フ者アリ)

○石田貫之助君(二百四十八番) 河島君カラ出サレマシタ問題ニ就キマシテハ、單純ナ問題ノヤウデアリマスガ、重大ナ關係ヲ有ツモノト考ヘマス、ソレデ私ハ委員會ニ於キマシテノ概略ヲ述べ、且ソ抽者ノ意見ヲ一應陳述致シ

タイト考ヘマス、河島君ノ御説ハ、此日本銀行ニ此簡條ノアルノハイカヌト云フコトニ記憶致シマスル、修正ノ際ニハ提出ニ爲フナカツタト私ハ考ヘマス、ソレハ先刻説明官ノ御辯明ノ通趣意ヲ私ハ了知ハシマセヌガ、了知セラレタルコト、存シテ居リマス、又其委員中ニ於テ是ニ同意ヲ表スル者ハナカツタト云フノガ、委員會ノ當時ノ概況デアリマス、備私ハ矢張是ハ原案通りマシテ、動產ト云フモノヲ制限ヲ付ケルヨトガ出來ナイ、否、是ハ動產ノ所有權ト云フモノハ自由ナリト云フコトノ定則ニ爲リマシテ、一方ニ於テ或ル會社ニ或事件ニ之ヲ外國人ニ持タサヌト云フコトハ、一私人ガ言フノト違ツテ、日本ノ法律ガ制定スルト云フコトハドウモ穩當ナラヌ事ト私共ハ考ヘルノデゴザリマス、是ハ條約ノ結果ト致シマシテ、日本勸業銀行ガ新ニ起サントスルモノデアリマスカラ、大ニ注意スル所カラ其觀念ガ起ルノデアリマセウガ、隨分既往ニ鑑ミマシテ要用ナル會社モアリ、業務モアリマス、サスレバ將來ニ於テモ外國人ニハ株券ヲ所有サスルコトハシナイト云フ結果ニナラウト思フ、左様ナコトハ對等條約ト云フ曉ニハ爲シ得ベカラザル事ト思ヒマス、ソレデ是ハ單純ノヤウデアリマスガ能ク考ヘマシタナラバ、矢張此原案通ガ私共ハ委員會ノ當時ヨリ至當ト考ヘテ居リマス、ソレカラ草刈君ノ御心配ノ地所ガ、外國人ノ手ニ入りハセヌカト云フコトハ、大體地所ヲ所有スル會社デナリ、流レテ來レバ賣却ヲスルノハ至當ノ事デアル、ソレハ一私人ニ限ラヌコトデアタテ、銀行ト云フモノニ所有權ガ移ルノデ、併シソレハイツマデモ所有スペキモノデナイト云フコトハ申スマデモナイコトデアルカラ、決シテサウ云フ恐ハナイ、ソレカラ今添田君ガ述ベラレタ所ニ就イテ私ハ同意ヲ表スル、單純ニ考ヘマスレバ矛盾スルヤウデアリマスガ、外國人ニ株ヲ持タサヌト云フノハ、此地方ヲ限シテ國家ガ限シタ地方ニ於テ、一府縣ノ基本財產トスルノデアルカラ、株主タル者ハ其府縣ニ原籍ヲ有スル者ト括ツタノデアルカラ、其區域ト云フモノニハ外國人ト云フ者ハ、頭ニ含マナイノデ、眼中ニ置カナイノデ、一府縣ニ限シタノデアルカラ、是ハ差支ナイトコト、私ハ考ヘル、日本人ト云フ區域内テナケレバ、此保護ヲ與ヘナイ保護ヲ蒙ラナインデ、精神上私杯トハ違ツテ居ルノデアルカラ、篤ト熟考致シマシタナラバ、矢張本條ノ通ガ、私ハ至當ト考ヘマスカラ、此事ヲ一言致シテ置キマス

(採決タクノ聲起ル)

○議長(楠本正隆君) 河島君ノ案ハ朗讀ヲ致シテ決ヲ採リマス
○河島醜君(百七十九番) 一言今ノヲ辯駁ヲシテ置キタ

寸一言致シタイ

(採決タクノ聲起ル)

〔討論終結〕採決々々ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 宮崎榮治君ヨリ定數ノ賛成者ヲ附シテ修正案ガ出テ居リマス、即チソレハ第一條ニ「漁業」ノ二字ヲ插入スルト云フ修正説、右ニ同意ノ諸君ハ起立

起立者

少數

○議長(楠本正隆君) 少數、因テ宮崎君ノ修正説ハ消滅シマシタ、第一條ヨリ三條マデ、原案ニ就イテ決議ヲ採リマス、第二條迄原案ニ同意ノ諸君ハ起立

起立者

多數

○議長(楠本正隆君) 大多數、因テニ條マデハ原案ニ決シマス、次ハ河島君ノ修正案

(町田書記官朗讀)

第三條ノ次ニ更ニ一條ヲ追加ス第四條日本勸業銀行ノ株主ハ帝國臣民ニ限

○議長(楠本正隆君) 唯今朗讀ノ修正案ニ同意ノ諸君ハ起立

○議長(楠本正隆君) 多數

〔少數々々〕「多數々々」「異議ヲ申立テマス」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 静ニ爲サイ——異議ノ申立ガアリマスカ

〔異議アリ異議アリノ聲起ル〕

○議長(楠本正隆君) 然ラバ大問題デアルニ依クテ、異議ガアレバ仕方ガナ

イ閉鎖ヲ命ズ——指名點呼ハ時間ヲ要シマスルニ依クテ記名投票ヲ用ヒテ決

ヲ採リマス——問題ニ賛成ノ諸君ハ白票ニ御氏名ヲ御記シニナリ、反対ハ青ノ方ニ氏名ヲ記シテ携帶ヲ乞ヒマス——點呼ヲ始メマスル

(町田書記官氏名ヲ點呼ス)

○議長(楠本正隆君) 開匣ヲ致シマスル

(書記官投票ノ數ヲ計算ス)

○議長(楠本正隆君) 投票ノ結果ヲ報ジマスル

總數百六十三

可トスル者 七十七

(拍手起ル)

否トスル者 八十六

○議長(楠本正隆君) 因テ修正案ハ消滅ニ歸シマシタ——、第四條ハ御動議ナキヲ以テ可決ト認メ、次ニ移リマス、第二章第五條ヲ以テ議題ト爲シマスル

○河島醇君(百七十九番) 本員ハ第二章重役會議全部ニ就イテ修正ノ意見ガゴザイマス、是ハ第五條ガ議題ト爲シテ居リマスガ、第二章ノ重役會議全體ニ關聯シテ居リマスガ故ニ、全部ニ就イテノ修正、二章全部ノ修正、即チ第5條ト皆關聯ヲ致シテ居リマス

○議長(楠本正隆君) 二章ノ全部ニ就イテノ修正案デスカ
○河島醇君(百七十九番) 五條、六條、七條、八條ト云フモノハ、皆連帶ヲ致シテ居ルコトデゴザイマス、ソレ故ニ全部ニ就イテ修正ガアリマス
○議長(楠本正隆君) サウ致シマスルト、何卒一箇條ゾ、ニ修正ハ出來マセヌカ

○河島醇君(百七十九番) 一箇條ヅツデハ役員ノ數トカ、何カデゴザイマスル故ニ、一箇條ノ修正ト云フモノハ外ニ關聯ヲ致シマスルガ故ニ、少シ困ルノデゴザイマス

○議長(楠本正隆君) 然ラバ八條マデヲ以テ議題ニ供シマスル——河島醇君(河島醇君演壇ニ登ル)

○河島醇君(百七十九番) 本員ガ第二章重役、此點ニ就イテ修正ノ意見ヲ提出シタルト云フ要領ハ御承知ノ如ク、此法案ハ總裁、副總裁、及理事、監査役ヲ以テ組織ヲ致シテ、殊ニ總裁ト云フモノニ特別ノ權利ヲ與ヘ是ニ專制ノ職權ヲ與ヘタモノデアル、本案ニ就イテ政府委員ノ説明ヲ聽クニ、此銀行ハ特別ナル銀行デアルガ故ニ、特ニ政府ガ任命ヲ致シ、即チ此總裁ヲシテ機敏ナ仕事ヲナサシメナクテハナラヌ、斯ウ云フノガ政府ノ意見デアル、即チ機敏ナル仕事ヲ要スルガ故ニ、從クテ此總裁一人ニ無上ノ權力、即チ獨裁ノ權利ヲ與ヘナクテハナラヌ、即チ此副總裁……

○星亨君(八番) ドウ云フノデアルカ、修正文ヲ御讀ミナサイ
○河島醇君(百七十九番) 宜シイ、御請求モアルニ依クテ聊カコ、ニ提出セントスル所ノ修正案ヲ讀ミマスル

○河島醇君(百七十九番) 宜シイ、御請求モアルニ依クテ聊カコ、ニ提出セントスル所ノ修正案ヲ讀ミマスル

第五條 日本勸業銀行ニ總裁、副總裁各一名取締役十名監査役若干名ヲ置ク

第六條 取締役ハ十名トシ其任期ヲ五箇年トシ株主總會ニ於テ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ之ヲ選舉シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ其滿期ニ當リ再選セラル、者モ亦同シ

第七條 監査役ハ三名以上トシ其任期ヲ三箇年トシ株主總會ニ於テ二十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ之ヲ選舉シ其滿期ニ至リ再選セラル、者モ亦同シ

第八條 總裁、副總裁、常務員及評議員ノ職權、職掌ハ定款ヲ以テ定シヘシ

總裁、副總裁及常務取締役ハ在任中他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ許サス

今述ベタ如ク修正セントスルノデアリマス、即チ總裁ヲ以テ總務ヲ主宰セシメ、若シ總裁故アルトキハ副總裁ヲ以テ代理セシムルノガ吾ミノ趣意デアリ、而シテ理事ト云フモノハ、恰モ普通商法ニ於ケル所ノ取締ト云フナウナ職權ヲ有スルモノデアラ、總裁ノ命令ノ下ニ立クテ仕事ヲナスモノデアル、

監査役ハ固ヨリ是ハ普通商法ノ規程ト效力ハ違ハヌト云フヤウナ、即チ政府

ノ提出ノ意デアッテ、政府ノ是ニ説明スル所ノ本旨デアリマス、然ル所此會社ト云フモノハ、固ヨリ合議體ノモノニ違ヒナイ、殊ニ我帝國商法ノ規定セラレテ商法ノ實施セラレタル以上ハ、斯ノ如キ會社ト云フモノハ、其大體

商法ニ則シテ而シテ此事ノ處置ヲナスト云フノガ、即チ穩當デアッテ最モ是ニ則ルベキモノデアラウト思フ、固ヨリ日本銀行ノ設立ノ際若クハ正金銀行

ノ設立ノ際ノ如キハ、未ダ帝國商法モ規定セラレヌ際デゴザイマスル故ニ、

特別ナ制度ヲ設ケタト云フモノハ、其當時ニ於テ相當ノモノカト認メマスケレドモ、今日帝國商法ノ發布セラレタニ就イテハ、成ルベクスノ如キ會社ト

云フモノハ、其大體ノ組織ハ會社法ニ依シテ而シテ其取締役ノ中ヨリ若干ノ專務員、若クハ一人ノ專務員ヲ置イテ、之ヲ頭取ト名附タルモ總裁ト名

附タルトモ、其名稱ハ敢テ選ビマセヌケレドモ、取締役ト云フモノハ、其要素ト致シテ、即チ商法ノ規定ノ如ク是ガ連帶責任ヲ以テサウシテ此銀行ノ業務ヲ總理スル所ノ責任ヲ得セシメヤウト云フノガ、本員ノ趣意デゴザイマス、今

政府ノ述ベタルガ如ク殊ニ機敏ヲ要スルガ故ニ、一人ニ全權ヲ與ヘテ一人ノ處置ニ依ツテ、殊ニ機敏ナ効キヲセナケレバナラヌト云フノハ、普通ノ營業

銀行ニ於テハ誠ニ利益ナヤウデアル、即チ横濱正金銀行ノ如キハ、海外各國ニ對シテ爲換ノ掛引、其他金銀ノ等差總テノコトニ就キマシテ機敏ナ争フシナケレバナラヌ、即チ瞬時ノ間ノ利益ヲ争フコトガゴザイマスカラ、其頭取タル者ハ最モ機敏ニ仕事ヲ爲ス——機敏ナ仕事ヲナシ得ラルノデアル、併ナガ

ラスノ如キ國家ノ機關タル所ノ土地抵當銀行デアッテ、而モ永年賦償還ノ法ヲ以テ貸附ケル所ノ銀行デアッテ見レバ、今日貸付ケタモノハ其結果ト云フモノハ、二十年、三十年、若クハ五十年ノ後デナケレバ其當否ヲ認メルコトガ出來ヌ長キ條約ヲスルモノデゴザイマスカラ、決シテ政府ノ立案ノ趣意ノ如ク機敏ヲ要スルモノデナクシテ、此規則ノ條例ニ依ツテ殊ニ鞏固致セバ、願クハ諸君、本員ノ提出スル修正案ニ賛成アランコトヲ希望致シマス

〔「贊成々々」ト呼フ者アリ〕
○中野武營君(二百二十四番) 議長
○議長(楠本正隆君) 先づ之ヲ朗讀ヲ致シテ、贊成ノ有無ヲ確メマス
○中野武營君(二百三十四番) 本員ハ贊成スルノデナイ、原案ヲ贊成シテ委員會ノ修正說ニ反對ヲ述ベルノデアル
○議長(楠本正隆君) ツレナラ一寸之ヲ確メテ、次ニ演説ヲ請ヒマスル
○工藤行幹君(百十番) 河島君ノ修正ニ贊成致シマス
○議長(楠本正隆君) 一應朗讀致サセマス

〔佐脇書記官朗讀〕

第五條 日本勸業銀行ニ總裁副總裁各一名取締役十名監査役若干名ヲ置ク

第六條 取締役ハ十名トシ其任期ヲ五箇年トシ株主總會ニ於テ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ之ヲ選舉シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ其滿期ニ當リ再選セラル、者モ亦同シ

總裁副總裁ハ取締役中ヨリ主務大臣之ヲ任命シ其他ノ取締役ハ互選ヲ以テ常務員二名評議員五名ヲ定ム

第七條 監査役ハ三名以上トシ其任期ヲ三箇年トシ株主總會ニ於テ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ之ヲ選舉シ其滿期ニ至リ再選セラル、者モ亦同シ

第八條 總裁、副總裁、常務員及評議員ノ職權、職掌ハ定款ヲ以テ定ムヘ

シ

總裁、副總裁及常務取締役ハ在任中他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ

許サス

○議長(楠本正隆君) 定數ノ贊成ガアリマスカ

〔「贊成々々」ト呼フ者アリ〕

○議長(楠本正隆君) 贊成諸君ハ聲ヲ揚ゲテ下サイ

〔佐脇書記官朗讀〕

○岡村貢君(百十七番) 是ヨリ申上ゲマス、此第五條日本勸業銀行ニ總裁、副總裁、各一人、評議員五人トアリマスル處ヲ、之ヲ削除致シマシテ、矢張原案ノ理事三人トアリマスルノヲ、之ヲ五人増シマシテ、八人ニ致シマス、監査役ハ三人以上ヲ置クト云フデアリマス

ガアリマス——岡村貢君

○議長(楠本正隆君) 定數ノ贊成アリト認メマスル、ソレカラモウ一ツ修正

ガアリマス

○議長(楠本正隆君) 聞讀ヲ致サセマスル

〔佐脇書記官朗讀〕

○議長(楠本正隆君) 此修正ニハ定數ノ贊成ガアリマセヌ、——中野武營君 第五條 日本勸業銀行ニ總裁副總裁各一人理事八人監査役三人以上ヲ置ク

○議長(楠本正隆君) 岡村貢君ノ修正ニ定數ノ贊成ガアリマスカ

〔「贊成ナシ贊成ナシ」ト呼フ者アリ〕

〔佐脇書記官朗讀〕

○議長(楠本正隆君) 此修正ニハ定數ノ贊成ガアリマセヌ、——中野武營君 本員ハ此第二章ノ重役ト申シマスル一章ハ悉ク原案ヲ贊成致ス、サウシテ委員會ノ評議員ヲ置イタト云フコトハ其當ヲ得ナイト云フコトヲ一言申上ゲタ

○中野武營君(二百三十四番) 簡單デゴザイマスカラ、是カラ申上ゲマス、

本員ハ此第二章ノ重役ト申シマスル一章ハ悉ク原案ヲ贊成致ス、サウシテ委員會ノ評議員ヲ置イタト云フコトデゴザイマシタガ、抑、此會社組織ニ於キマシテ

左様ニ其立法行政拵ト云フ區別ヲ立テ得ラレルモノハナイノデアル、要ス

評議員ハ立法ノ事ヲ處理シテ行ク故ニ、外ノ重役トハ責任ガ違フ、故ニ罰則ヲ置イテモ宜イト云フコトデゴザイマシタガ、抑、此會社組織ニ於キマシテ

ルニ株主總會ト申スモノハ立法ナンデアル、役員ノ中ニ立法ノ行政ノト云フ

ヤウナコトガアシテハ、此敏活ナル勤ラセんナラヌモノガ出來マスノデゴザイマセウカ、株主總會ナルモノガアシテ、ソレノ途ヲ大體ヲ決議シテ置ク、

其決議ニ從ヒ、他ノ法律ニ從シテ、役員ガ業務ヲ執行シテ參ルノデアル、ソレ故ニ此役員ト云フモノ、中ニ立法ノ行政ノト云フコトノ區別ヲ面倒クサク立テマシタナラバ、事務ニ濫滯ヲ來シテ、サウシテ其會社ノ利ニナラズシテ、却テ損ヲ受クルト云フコトハ必然ノ事ゴザイマス、況ヤ此修正ニ依リテ見マスルト、評議員ガ五人ゴザイマス、總裁、副總裁一人ツツ、監查役五人、理事三人、詰リ十人が重役會議ニ出席テ決議ヲ致ス、然ラバ昨日重野君ノ述ベラレマシタ通り、評議員ガ多數ヲ占メルノデアル、斯様ナ不權衡ナモノヲ置イテ、而シテ此評議員ト云フモノハ誠ニ無責任ナノデアル、責任ヲ持タヌノデアル、其責任ヲ持タヌ人が五人、其重役會議ニ這入リテ、參テ、サウシテ種々ナ事ヲ討議サレタナラバ、他ニ總裁アリト雖モ、副總裁アリト雖モ、之ヲ執行スルニ甚ダ差支ガアルニ相違ナイ、此銀行ト申スモノハ政府ガ特殊ナル法ヲ立テ、サウシテ特例ノ此何ヲ與ヘテゴザイマスル以上ハ、政府ニ於テ十分ナル監督ヲスルト云フコトニ相成シテ居ル、即チ第七條ニ政府ノ監督ノ事分ナル監督ヲスルト云フ者ガアシテ、監査役ハ其法律ヲ殊更ニ條ヲ掲ゲテアル位デゴザイマス、サウシテ政府ハ此業務ヲ十分ニ監督ヲ致シテ參ル、内ニ在リテハ監査役ト云フ者ガアシテ、監査役ハ其法律ヲ株主ノ決議ニ矛盾シテ居ル行ヲ致シタルヤ否ヤト云フコトヲ監督致シテ、一朝左様ナ事ガアシタナラバ、株主ヲ召集シテ、此立法部タル株主ニ訴ヘテ處置セラル、ノガ當然ノコトデアル、然ルニ此評議員ヲ立法ノ如キ制裁ト云フモノヲ茲ニ置キマスルノハ、却テ此銀行ノ業務ヲシテ濫滯ナラシメ、停滯ヲ致サセテ、勤キヲ鈍クスルヨリ外ニ效ハナイト考ヘマスルガ故ニ、第五條ヨリ第八條マデ、矢張原案ノ通可決セラレンコトヲ希望致シマス

マシタ、其他ハ御異議ナキヲ以テ原案ニ決シマスル、ソレヨリ以下ハ第七條ヨリ八條マデノ……

○星亨君(八番) 八條迄ハ會議ニ掛リテ居リハシマセヌカ、サウ云フヤウニ河島君ノ時ニ極メテアルヤウニ思ヒマス

○議長(楠本正隆君) 八條迄ハ原案ニ御異議ハアリマセヌカ
〔原案ニハ異議ナシト呼フ者アリ〕

〔是モ原案ニ復活スペシ〕ト呼フ者アリ「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 第八條原案ニ就イテ決議ヲ採リマス、八條、原案ニ同意ノ諸君ハ起立

○議長(楠本正隆君) 多數、因テ八條ハ原案通決シマシタ——次ハ第二章第九條——御動議ガナケレバ原案ニ決シマス——次ハ第十條

〔原案ニ賛成ト呼フ者アリ〕

○中野武營君(二百二十四番) 是モ評議員ト云フモノヲ設ケタカラシテ、役員會ト云フモノヲ拵ヘテ委員會修正ニ出テ居リマスガ、原案ニ既ニ決シタ以上ハ、重役會ト云フモノハイラヌコトニナリマス

〔原案異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(楠本正隆君) 此十條ノ朱書ハ、當然ノ結果ヲ消滅ト致シテ、原案ニ決シテ御異議アリマセヌカ

○議長(楠本正隆君) 然ラバ原案ニ決シマス、次ハ十一條、十二條ヲ議題ニ供シマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(楠本正隆君) 是モ亦御異議ナキヲ以テ原案ニ決シマスル、次ハ十三條第一項ハ御異議ナケレバ原案ニ決シマス、二項ハ委員會ノ修正ニ就イテ決議ヲ採リマス

〔委員會修正ニ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(楠本正隆君) 委員會ノ修正案ニ御異議ガゴザリマセヌカ
〔異議ガアリマス、大イニアリマス〕ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 然ラバ決議ヲ採リマス、十二條ノ第二項委員會ノ修正案ニ同意ノ諸君ハ起立

○議長(楠本正隆君) 多數

○議長(楠本正隆君) 第五條ハ原案通決シマスル、次ハ第六條ノ第一項、第二項ハ御異議ナキヲ以テ原案ノ通ニ可定ト認メマスル、三項ノ朱書ノ委員會ノ修正案……

〔最早決議ヲ要セズト呼フ者アリ〕

○議長(楠本正隆君) 此三項ノ委員會ノ修正ハ自然ノ結果デ、當然消滅致シ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(楠本正隆君) 岡村貢君ノ修正案ガアリマス

○岡村貢君(百十七番) 第十四條第一項ニ就キマシテ、斯様ニ修正ヲ致シタ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

(二四)

イト思ヒマス、「日本勧業銀行ハ年賦償還貸付金總高ノ十分一一相當スル金額ヲ限り不動產ヲ抵當トシ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得」ト修正致シタイト存ジマス

○河島醇君(百七十九番) 本員モ十四條ニ就イテ修正ノ意見ガアリマス
○議長(楠本正隆君) 岡村君ノ修正文ヲ書記官ヲシテ朗讀サセマス

第十四條 日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金總高ノ十分一一相當スル金額ヲ限リ不動產ヲ抵當トシ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得

(二項ダケデスカ、本文マデデスカ)ト呼フ者アリ

○岡村貢君(百十七番) 是ヲ削除致シマスル要ハ、若シ斯ウ云フヤウニシナケレバ勸業銀行ノ性質ヲ失ヒマス……(分ラナイ分ラナイ)ト呼フ者アリ)勸業銀行ハ不動產ヲ抵當トスルト云フ目的ヲ以テ立ツル銀行デアリマス、國債證券ナリ何ナリ、之ヲ抵當ニスルト云フコトニナルト、自然不動產ヲ抵當トスルコトニ違ヒマスカラ、斯ノ如ク修正ニナラナケレバ……

○河島醇君(百七十九番) 岡村君ニ賛成致シマス

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)「原案ニ賛成」ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 岡村君ノ修正ハ定數ノ賛成ニ満チマシタ

○中野武營君(二百二十四番) 私ハ修正説ヲ出シマス、是ハ大切ナ問題デアリマスカラ、一寸演壇ニ登リマス

○議長(楠本正隆君) 中野武營君

(中野武營君演壇ニ登ル)

○中野武營君(二百三十四番) 本員ハ第十四條ノ第二項ヲ全ク削除スル意見

デゴザリマス、其次第ハ昨日田口君ガ此案ノ全體ニ就イテ大變ナ攻擊ヲ爲サレマシタ、本員ハ田口君ガ憂ヘラレマス如キマデノ大ナル憂ハ懷キマセヌ、

隨分之ヲ以テ實行シテ參レバ、農業ナリ工業ナリノ發達ヲ助ケテ往クモノト信ズル者デゴザリマスルガ、併シ斯様ナ特例ノモノヲ設ケマスル場合ニハ、

全體ノ經濟上ニ如何ナル變動波瀾ヲ起シハセヌカト云フコトヲ、餘程慎重ニモ直サズ唯今經濟社會ニ現ニ在リツ、アル一般ノ銀行ト申スモノト、甚シキ競争ヲ起シテ參ル結果ヲ見ルノデアリマス、此第二項ヲ此儘ニ致シマスル考ヘナケレバナラヌノデゴザイマス、

ト申セバ、御承知ノ如ク此銀行ハ資本一千萬圓マデモアル、此一千萬圓ニ對スル十倍マデヲ債券ヲ發行スルコトガ出來マス、一億圓ノ高ニ對シテ、其十分ノ一ト申スハ一千万圓ノ金ヲ以テ他ノ銀行ト同様ニ、而

モ安利デ五箇年以内ノ定期償還ノ貸付ヲ爲スト言ツタナラバ、如何ナル有様モ整理ニ傾キツ、アル此世ノ中ヲシテ、此事ノタメニ甚シク銀行社會ニ競争

ヲ起サセマシテ、遂ニハ經濟ヲ系リマスヤウナ結果ヲ來シマスト考ヘマスルガ故ニ、私ハ甚ダ懸念ニ堤ヘヌノデアリマス、昨日政府委員ガ御辯明中ニ、

田口卯吉君ノ仰セラレタコトヲ排斥シテ曰ク、此銀行ト云フセノハ、地所ヲ抵當ニ致ス銀行デアル、普通ノ銀行ニ於テハ地所ヲ抵當ニスルコトヲ始終避ケツ、アルノデアル、其避ケツ、アル所ノモノヲ拾ハセテ、此勸業銀行ガ貸方ヲ御話ニナリマスノハ、取りモ直サズ政府委員ノ御辯明ヲ自ラ崩シテオイ

テ御辯明ニナリマシタデ、何モソレ程ノ區別ガ此銀行ヲ立ツル上ニナケレバナラヌ皆デゴザイマスル、然ルニ此第二項ニ於テ普通銀行ト同様ナ貸付ノ仕付ケルノハ少モ衝突ヲスルコトハナリ、競争スルコトハナリト云フコトヲ以

テ御辯明ニナリマシタデ、何モソレ程ノ區別ガ此銀行ヲ立ツル上ニナケレバ非削ラナケレバ彼ノ言譯ガ立タヌ、政府ハ趣意ハ立タヌト云フコトニ相成ルノデゴザイマス、私ハ長イコトハ申シマセヌガ、前後ヲ較ベテ見マスルト、

一千万圓モ斯様ナ寄セ方、仕方ヲ以チマシテ金ヲ寄セテ置イテ、低利ヲ以テ他ノ銀行ト競争フサスト云フ端緒ヲ開イタナラバ、大變社會ニ害ヲ爲ス、折角此農工ヲ助ケ獎勵スルガタメニ設ケタ機關ガ、却テ他ノ銀行ト競争フシテ

經濟社會ヲ累スト云フコトガアリマシタナラバ、實ニ遺憾千万ナコトデゴザイマスル故ニ、ドウゾ此第二項ハ全ク削除ヲセラレンコトハ當然ダラウト思フ、安全ダラウト信ズルノデゴザイマス 若シ之ヲ置キマシタナラバ、私ハ

銀行ノ勵トシテ利得トシテ、競爭シテ此貸付方ヲ務メルニ相違ナイノデゴザイマス、其結果ハ昨日田口君ガ仰シタヨリ懸念ノモノガ出來テ参リマスカラ、ドウゾ此第二項ハ全ク削除セラレンコトヲ希望致シマス

(「贊成々々」ト呼フ者アリ又「原案賛成」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 岡村君ノ修正説ヨリ朗讀ヲシテ決議ヲ採リマス

(中野君ニ賛成)ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 第二項原案同意ノ諸君ハ起立

原案通決シマス、第二項ノ岡村貢君ノ修正案ニ同意ノ諸君ハ起立

起立者 少數

○議長(楠本正隆君) 少數、因テ岡村君ノ説ハ消滅シマシタ——原案ニ就イテ決ヲ採リマス

(「原案異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

(中野君ニ賛成)ト呼フ者アリ

○議長(楠本正隆君) 第二項原案同意ノ諸君ハ起立

起立者 多數

○議長(楠本正隆君) 多數、次ハ第十五條ヲ議題ト爲シマスル、委員會ノ修

正案ニハ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 異議ナキヲ以テ委員會ノ修正案通決シマス、次ハ十六

○河島醇君(百七十九番) 本員ハ修正ノ意見ガゴザイマス、第十七條及十八條ニ對シテ……

○議長(楠本正隆君) 河島醇君
(河島醇君演壇ニ登ル)

○河島醇君(百七十九番) 本員ガ本案ニ向テ修正ヲ必要トスル譯ハ、即チ第十六條ノ規定ニ依テ第十七條、第十八條ヲ修正ヲ致サウト思フノデアリマス、第十六條ノ規定ハ、昨日總體論ニ於テ述べタ如ク、此貸付方法ニ就イテ政府委員ニ質問ヲ致シタ所ガ、政府委員ノ辯頗ル明瞭ヲ缺イダノデアル、即チ對人信用デアルカ、對物信用デアルカ、又ハ是ガ輒轉賣買セラレルコトヲ得ルカ否ヤト云フ點ニ於テ、屢々質問ヲ致シタ所ガ、始終曖昧ニシテ明答ヲ缺イダノデアル、然ルニ遂ニ議會停會ノ餘日ヲ以テ十分研究ヲセラレタモノト見エテ、漸ク此條項ハ對物信用ヲ本トシテ立案ヲ致シタモノデアル、又對物信用ニシテモ差支ガナイ、又各法律ヲ段々取調べ見タ所ガ、輒轉賣買セラレルモ妨ナイト云フコトヲ言ハレタノデアル、ソレ故ニ致シテ本員ハ尙ホ是ニ修正ヲ加ヘテ、之ヲ明瞭ニ致サウト致シタ所ガ、政府委員ハ遂ニ一種ノ折衷說ヲ出シテ、本員ガ修正ノ意見ニ對シテ、サウシテ此本條ニ加ヘタイ所ノ意見ヲ提出セラレタノデアル、是レ即チ政府委員ノ答辯デアル然ルニ尙ソレニ就イテ勸考ヲ致シテ見タ所ガ、此十六條ト云フモノハ即チ不動產ヲ抵當ニ取ル場合、是ニ金ヲ貸付ケントスル場合ヲ規定シ、又舊來アル所ノ土地ニ新ニ金ヲ貸付ケントスル所ノ手續ヲ記載シタモノデアル、貸シタ上ノ權利ヲ認メテ貸シタ上、此抵當ノ土地ガ銀行ニドウ云フ義務ヲ持ツ、ドウ云フ義務ヲ持タネバナラスト云フコトヲ記載シタモノデナクシテ、銀行ガ不動產ニ向テ貸付ケラ爲ストキハ、斯ノ如キ方法ニシナケレバナラスト云フコトガ規定シテアルノデアル、即チ貸付ケル場合ヲ言クタモノデアル、ソレカラ此第十七條ニ向テ見テモ固ヨリ同様デアル、即チ「日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ノ見込アルモノニ限ル」又第二項ニ就イテモ「日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保険付ノモノニ限ル但抵當物ノ外ニ貸付金高二倍以上ノ價格ヲ有スル動產又ハ不動產ヲ添抵當ト爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セラルコトヲ得」斯ウ云フ場合ヲ以テ、十六條ト十七條、又十八條デハ即チ不動產ヲ抵當トシテ貸付ケルコトガ規定シテアル、ソレ故ニ本員ハ此原案十八條ノ「不動產ヲ抵當トシテ貸付ケル價格ノ三分ノ二以内トス」十六條、十七條、十八條ノ規定ト云フモノハ、即チ日本勸業銀行ガ不動產ヲ抵當トシテ貸付ケル所ノ額ハ日本勸業銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トス」ト云フノ額ハ日本勸業銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トス」ト云フノハ、之ヲ繰上ゲテ之ヲ十七條ノ三項トシタイ、十七條ノ三項トスル場合ニ於テハ、即チ第十六條ハ不動產ヲ抵當トシテ貸付ケル場合ヲ云ヒ、又十七條ハ其貸付ケベキモノニ對シテ、是ハ永續スル確實ナル收益ノアルモノデアル、

建物ハ此保険付キノモノノデアル、ソレカラ三項ニ繰上グヤウト致シタ所ノ十八條ハ「其貸付ケル金額ハ價格ノ三分ノ二以内トス」皆手續ヲ言フタモノデアル、之ヲ十七條ノ三項ト致セバ、事實ノ上ニ誠ニソレハ穩デアル、文面カラ致シテモ手續カラ致シテモ……シテ見レバ其銀行ガ抵當ヲ取シタ所ノ其確メト云フコトハ、正シク缺ケテ居ル、ソレ故ニ新ニ――十八條ヲ繰上グタラ、即チ原案ノ十八條ヲ十七條ノ三項ト致シテ、其代ハリ十條ニ於テ新案ヲ掲ゲタイト云フノ修正ノ意見デアル、第十八條「日本勸業銀行ニ於テ抵當貸付ヲ爲シタル不動產ハ其公課額ヲ控除シタルモノ、外如何ナル場合ニ於テモ其年賦金ハ之ヲ先取スル特權ヲ有スルモノトス賣與讓與又ハ共有ニ屬スル場合ニ於テモ其動產ニ對シ日本勸業銀行ハ其特權ヲ失フコトナシ」斯ノ如キ條項ヲ十八條ニ新ニ置キタイト云フノガ、即チ本員ガ十七條、十八條ヲ修正セントスル所ノ意見デアリマス、即チ十八條ヲ十七條ノ三項ト致シテ之ヲ繰上グトヲ加ヘナケレバナラヌ「現地主ニ於テ」ト云フコトヲ加ヘナケレバナラヌ、ントスル所ノ意見デゴザイマス、而シテ是ガ修正ト爲タ結果ト致セバ、自ラ其後トノ條項ニ於テ、債權者ト云フノハ債權者又ハ地主ニ於テト云フコトヲ加ヘナケレバナラヌ「現地主ニ於テ」ト云フコトヲ加ヘナケレバナラヌ、ソレハドウ云フコトデアルカト申シテ見レバ、即チ本員ガ屢々質問フタ如ク、政府ガ終ニ是ハ對物信用デアル、即チ其人ハ交換セラレテモ、其所有者ノ如何ニ拘ラズ、此土地ハ銀行ニ向テ即チ一種ノ義務ヲ持ツテ、第二ノ租稅トシテ銀行ニ向テ年賦金ヲ償還スルノ義務ノアル土地デアルト云フコトヲ明言セラレタ以上ハ、又其精神ニ依テ成立シテ居ル所ノ法律デアル以上ハ、今申ス如ク確メテ置ク必要ガアル、確メテ置イタ以上ハ、從ツテ其債務者ト云フモノハ、其人ガ交換セラル、ニ依ツテ抵當ノ不動產ヲ再び買フ者、若クハ讓受タル者ハ、同様前債務者ノ爲シタ所ノ此不動產ニ對スル所ノ契約ヲ自ラ繼續セラレテ往ツテ、即チ其土地ヲ有スル者ハ此銀行ニ向テ償還ノ義務ヲ持ツト云フコトニナサネバナラヌ、故ニ即チ債務者又ハ現地主ト云フコトヲ加フル必要ガアル、即チ本員ガ十七條ノ三項ニ原案ノ十八條ヲ繰上グルト云フハ、即チ前ニ申シタ、十六條ヲ修正シテ、即チ銀行ガ不動產ヲ抵當トシテ貸付ケル所ヲ言クタモノデアラ、其取シタ所ノ不動產ヲ確メルト云フノガ新ニ加フル所ノ必要ガアラウト思ヒマス、モウ一應朗讀致シマス、即チ第十八條日本勸業銀行ニ於テ抵當貸付ヲ爲シタル不動產ハ其公課額ヲ控除シテ八條日本勸業銀行ニ於テ抵當貸付ヲ爲シタル不動產ハ其公課額ヲ控除シテモノ、外如何ナル場合ニ於テモ其年賦金ハ之ヲ先取スルノ特權ヲ失フコトナシ」願ハクハ諸君、國家將來ノタメニ贊成アランコトヲ希望致シマス

○高木正年君(百二十九番) 自分ノ修正ハ簡單デアリマスカラ此處デ述べマス、自分ノ修正ハ十八條ノ不動產ノ抵當價格ヲ、建物ト土地トノ區別スルノ特權ヲ失フコトナシ」願ハクハ諸君、國家將來ノタメニ贊成アランコトヲ希望致シマス

アリマス、文章ヲ讀メバ「土地ヲ抵當トシテ貸付タル金額ハ日本勸業銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トシ建物ハ五分ノ一以内トス」斯様ニ修正致シマス、勸業銀行ガ建物ヲ抵當トシテ貸付タル建物ハ工業用ノ建物デアル、工業用ノ建物ト云フモノハ、普通ノ建物ト違シテ價格ノ鑑定ハ餘程六ヶ敷イモノデアル、且ツ危險ナモノデアル、一朝其會社ガ事業ヲ廢止スルトキハ、其建物ハ殆ド價ナキモノト爲ルト云フコトハ是迄工場ノ倒レタトキノ様デアル、斯様ナ危險ナ建物デゴザイマスカラシテ、普通ノ建物ノ抵當價格ヨリ下ゲテ置クト云フコトハ、是非共規定シテ置カナクテハナラヌ必要ガアル、ソレ故ニ土地ハ三分ノ二、建物ハ五分ノ一以内ト云フコトニ修正セントスルノデゴザイマス

〔採決々々ト呼フ者多シ〕

○議長(楠本正隆君) 高木正年君ノ修正ニハ、定數ノ賛成ガアリマスカ

〔賛成々々ト呼フ者アリ〕

○議長(楠本正隆君) 河島君ノ修正案ニハ定數ノ賛成ガアリマスカ、確メマス

〔賛成々々ト呼フ者アリ〕

○議長(楠本正隆君) 河島君ノ修正案ニハ、定數ノ賛成ガアリマスカ、確メマス

〔賛成々々ト呼フ者多シ〕

○議長(楠本正隆君) 御異議ナキヲ以テ原案ニ決シマス、諸君ニ相談シマス成ハアリマセヌ、定數ニ満タヌト認メマス、是ニ於テ第十六條ヨリ二十七條マデハ原案ニ決シテ宜シウゴザイマスカ

〔異議ナシト呼フ者多シ〕

○議長(楠本正隆君) 然ラバ、次ハ第二十八條ヲ以テ議題ト爲シマスルガ、議事ハ未ダ了リマセヌケレドモ、既ニ定刻ヲ過ギ、且ツ人數モ大分少クナリマシタガ如何デゴザイマセウカ、尙ホ續ケテ會議ヲ致シマセウカ、或ハ延會ヲ致シマセウカ、諸君ノ御意見ハ如何デゴザイマス

〔委員ノ修正ヲ一遍ニヤツテ貰ヒタシト呼フ者アリ「ヤルベシヤルベシト呼フ者多シ〕

○議長(楠本正隆君) 然ラバ、次ハ第二十九條ヨリ二十五條マデ議題ト致シマス

〔先キノ結果ニ極マスト呼フ者アリ〕

○議長(楠本正隆君) 前ノ決議ノ當然ノ結果、此修正ニハ異議ナシト認メマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(楠本正隆君) 次ハ第二十九條ヨリ二十五條マデ議題ト致シマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○河島醇君(百七十九番) 本員ハ三十四條ニ修正ヲ致シマス

〔モウ止メ給ヘト呼フ者アリ〕

○河島醇君(百七十九番) 賛成ノ有無ニ拘ラズ、修正シマス

○議長(楠本正隆君) 河島君——時間ヲ少シ延長致シマス

〔河島醇君演壇ニ登ル〕

○河島醇君(百七十九番) 第五章債券、即チ第三十四條ト云フモノハ最モ必要ナル所ノ規定デアル、是ハ日本勸業銀行ハ資本金四分ノ一以上拂込アルトキハ云々ト記載シテアル、之ヲ本員ハ半額以上拂込アルトキハ云々ト規定致シマス、ソレハドウ云フ理由デアルカト言ヘバ、此銀行ハ先づ道理ヨリモ必通ノ銀行ハ四分ノ一ノ拂込ガアレバ、他カラ金ヲ貸借ヲナスコトガ出来ル、或ハ信用ニ依ツテ預り金ヲ爲スコトガ出來テ、其業務ヲ營ムコトガ容易ニ出来ルケレドモ、此銀行ハサウ云フコトハ出來ナイ、即チ資本ノ拂込ニ爲ツテ居ル金ヲ以テ、土地ヲ抵當ニシテ、不動産ヲ抵當ニシテ貸付タル額ニ依ツテ見テモ、四分ノ一デハ營業ヲ開始スルコトガ出來マセウケレドモ、半額以上拂込マナイ以上ハ、恐ラク株券ハ自由ニ賣買スルコトガ出來ルヤ否ヤ、是ハ假株券デアラウ、假株券デアルトスレバ、其假株券ヲ持ツテ居ル人ガ債權者デアル、ソレガ再び債券ヲ發行スルト云フモノハ、ドウモ此商法上ノ規定ニ依ツテ見テモ甚ダ不穩當デアラウト思フノデアル、況ヤ實際ニ於テ此金額ヲ以テ、斯ノ如キ銀行ノ業務ヲ營ムコトガ出來ルヤ否ヤト云フコトニ於テハ、決シテ出來ナイ、是ニ依ツテ本員ハ政府委員ニ質問致シマシタ所ガ、外ノ銀行トハ達ヒマシテ、即チ集メタ金ヲ以テ土地ヲ抵當ニシテ貸付ケル、其抵當ニ依ツテ債券ヲ發行スルガ故ニ、此金ノ運轉ハ自由デアルト云フコトヲ言ハレタケレドモ、ソレハ政府委員ガ實際此銀行ノ應用、其活動ヲ知ラナイ所ノ答辯デアルノデアル、元來債券ヲ發行スル場合ハ、第一債券、第二債券ト發行スルコトデアラテ、抵當ヲ入レ、バ直ニ債券ヲ發行シテ、幾回モ債券ヲ發行スペキモノデナインチ、即チ一回ハ凡ソ二百万圓ヲ限リ債券ヲ發行シテ、二回ハ五百万圓ト、ソレハ一期々々ノ總額ヲ極メテ發行スルモノデアル、サウシテ例ヘバ今日假リニ二百万圓ノ債券ヲ發行致サウトスレバ、本年今月ヨリ何年ニ至ル三十箇年ナラバ三十箇年ノ期限ニ於テ、何回ノ抽籤ヲ致シテ、毎年抽籤ハ斯様々々ノ法ニシテ、其内割増金ヲ受クル所ノ籤ハ何年デアル、其金額ヲ計算致シテ、ソレハ一ノ表ニ現シ、若クハ債券ノ裏面ニ其計算ヲ確實ニ示シテ債券ヲ募集スル方法ニ爲ツテ居ル、故ニ第一ノ債券ハ即チ何年何月ニ發行セラレタ故ニ、モウ既ニ其償還額ハ残リガ半バニ爲ツテ居ル、或ハ半バ以上ニ爲ツテ居ル、ソレガタメニ其債券ト云フモノニ非常ナ價額ヲ要スルノデアル、故ニ古イ債券ハ新シイ債券ニ同様ナ利息ヲ得テ、同様ナ割増金ヲ受ケルモノデアル、故ニ其第二ノ債券ヲ發行スルノ場合ハ自ラ同様ナ方法デアラテモ、市場ノ賣買ニ其値段ガ前ニ發行セラレタモノト、後ノモノトハ大高低ガアル、ソレハ實際ノコトデアル、サウ云フ方法ニ爲スモノナルガ故ニ、抵當ヲ取レバ直チニ一万圓デモ、二万圓デモ、直チニ債券ヲ發行スルト云フ方法ニスルモ

ノデハナイ、ソレハ政府委員ニハ分カラヌ、即チ價格ト價格比較シテ調査シタ結果デアルカラ、サウ云フ寶ヲ知ラナイ、故ニ直チニ取ヲ抵當ハ、直チニ債券ヲ發行スルガ如キ考案ニ依ッテ此法案ヲ出シタモノデアルガ故ニ、即チ四分ノ一ノ金ガアレバ、十分ニソレガ運轉ガ出來ルト云フ所ノ計算ガ立ツタノデアル、即チ若シ假ニ二百五十万圓ノ拂込金ヲ以テ、創立費其他ヲ差引イテ、之ヲ貸付高ニ附イテ債券ヲ發行致サウト場合ハドウナルカト云ヘバ、債券ヲ發行シテ其金ヲ募集スル間、尙ホ其募集ノ終ラザル前ニ十分ニ金ヲ備ヘテ居ツテ、イツ何時モ求ニ應ズル準備金ガナクテハナラヌ、其金ガ必要デアルガ故ニ、僅ニ二百五十万圓ノ拂込ノ金額ヲ以テ、一方ニハ貸附ヲナシテ、一方ニ於テハ債券ヲ發行スルト云フコトハ、實際此少額ノ拂込デハ少イノデアル、ソレガ故ニ少クトモ五百万圓以上ノ拂込ヲ要スルト云フノハ、事實運轉上ニ必要ナルガ故ニ、必ズ半額以上ノ拂込アルトキハト云フコトニ修正ヲ致サナケレバ、事實ニ於テ行レナイコト、思フ、又サウデナクテハナラヌノデアル、故ニ諸君ニ於テモ宜シク御勘考アツテ、實際此仕事ノ出來ルヤウニ、足ノ步行ナルヤウニ修正アランコトヲ希望スルノデアルト認メマスニ依クテ、本日ハ延會ヲ致シ、明日ノ日程ヲ報ジマスル

○議長(楠本正隆君) 修正說ガアルニ依ッテ、討論終結ハ問題トハナリ得ラレマセヌ、——マダ田口君ノ修正說モアリ、且ツ河島君ノ修正案ノ出テ居リマス、三十四條ニ就イテモ隨分議論モアリマセウケレドモ、定數ガ少シ缺ケルト認メマスニ依クテ、本日ハ延會ヲ致シ、明日ノ日程ヲ報ジマスル

〔討論終結ト呼フ者アリ〕

議事日程 第三十八號 明治二十九年三月十四日(土曜日)

午後一時開議

第一 日本勸業銀行法案(政府提出)	第二 讀會ノ續
第二 農工銀行法案(政府提出)	第二 讀會
第三 農工銀行補助法案(政府提出)	第二 讀會
第四 獵疫豫防法案(政府提出)	第一 讀會ノ續
第五 移民保護法案(政府提出)	第一 讀會ノ續
第六 河川法案(政府提出)	第一 讀會
第七 葉烟草專賣資金會計法案(政府提出)	第一 讀會ノ續
第八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第一 讀會
第九 北海道鐵道敷設法案(貴族院提出)	第一 讀會ノ續
第十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉	第一 讀會
第十一 酒精營業稅法中改正法律案	第一 讀會
第十二 山形縣下郡分合法案(重野謙次郎君 外二名提出)	第一 讀會
第十三 郡制改正法律案	第一 讀會

第一讀會ノ續(特別委員)

第一讀會

第一讀會

第一讀會ノ續
(特別委員)

第一讀會

○議長(楠本正隆君) 是ニテ散會ヲ報ジマスル

第二十二 (首藤陸三君外二十八名提出) 午後六時六分散會

第二十三 (首藤陸三君外二十名提出) 輸入羊毛海關稅免除法律案(松尾寛三君外七名提出)

第一讀會

第一讀會ノ續
(特別委員)

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會

第一讀會